

# 携帯電話サービス等に関するアンケート調査報告

2021年11月

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課



# 目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	携帯電話サービスについて	
問 1	自分に合った料金プランの選択状況	2
問 2	データ通信料の把握状況	3
問 3	現在加入しているオプションサービスの把握状況	4
問 4	現在の料金プランを見直した時期とそのきっかけ	5
問 5	端末の購入先とその理由	7
問 6	料金プラン等の契約手続先とその理由	9
問 7	携帯電話サービスに関する情報の入手先	11
問 8	携帯電話サービスに関わるトラブル等	12
問 9	安心して利用するために必要なこと	13
2	消費者教育・啓発・情報提供事業について	
問 10	消費者教育・啓発・情報提供事業の認知度	14
問 11	消費者教育・啓発・情報提供事業の効果	15
問 12	消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用	16
問 13	「あいち暮らしっく」等に掲載してほしい情報・分野	17
問 14	「あいち暮らしWEB」及び「エシカル×あいち」の閲覧項目	18
問 15	消費者問題に関する授業や講座の参加経験	20
問 16	消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマ	21
問 17	高齢者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	22
問 18	若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	23
問 19	消費生活相談窓口の活用の有効な対策	24
問 20	エシカル消費の認知度、普段取り組んでいるエシカル消費	25
問 21	エシカル消費の認知度を高めるために有効だと思う施策	26
3	食の安全・安心について	
問 22	食の安全に関する取組への関心度	27
問 23	食の安全への影響で特に不安に思っているもの	28
問 24	食品を購入するときに特に注意するもの	29
問 25	愛知県の食品衛生を向上させるための取組	30
問 26	アニサキスによる食中毒について	31
問 27	カンピロバクター食中毒について	32
問 28	テイクアウトでの食中毒を予防するために行っていること	33
問 29	ゲノム編集技術応用食品への関心について	34
問 30	食の安全・安心に関する情報発信で特に関心をもっているもの	35
問 31	食の安全・安心に関する意見・要望等	36

#### 4 食生活について

問 32	無駄や廃棄の少ない食事づくりについて	37
問 33	栄養バランスのとれた食事について	38
問 34	地域の産物を活かした料理の導入について	39
問 35	郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について	40
問 36	食品を購入する際の産地について	41

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

携帯電話は、いまや生活必需品となっているとともに、社会経済活動を支える重要インフラとしての役割を果たしています。こうした中、利用者にとって分かりやすく納得のできる料金・サービスの実現が求められており、総務省は2021年4月に「携帯電話ポータルサイト」を開設し、消費者庁とともに自分に合った料金プランを選択するよう啓発しています。

一方で、「携帯電話サービス」に関する消費生活相談件数は例年一定数寄せられており、複雑な料金体系やオプション加入等によるトラブルが散見されます。

このアンケート調査は、消費者の意識、認知度、意向などを把握し、今後の施策の参考とするものです。

## 2 調査の実施時期

2021年7月21日から8月9日まで（郵送による）

## 3 調査対象者

愛知県消費生活モニター<sup>(※)</sup> 149名 （回答者数129名 回収率 86.6%）

## 4 回答者の性別・年齢

(1) 性別 女性：87名（67.4%）、男性：42名（32.6%）

(2) 年代別 20歳代：2名（1.6%）、30歳代：12名（9.3%）、40歳代：38名（29.5%）  
50歳代：24名（18.6%）、60歳代：30名（23.3%）、70歳代：18名（14.0%）  
80歳以上：5名（3.9%）

（注1）調査結果の数値（率）は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

（注2）調査結果中の「回答者数」は、「調査対象者」から「未提出者」「無回答」「無効回答」を除いた数です。

※ 愛知県消費生活モニター：愛知県からの依頼により、危険と思われる商品、不当な表示、悪質商法などの観察や、県への情報提供を行うほか、身近な方への消費生活に関する情報の提供等を行っています。

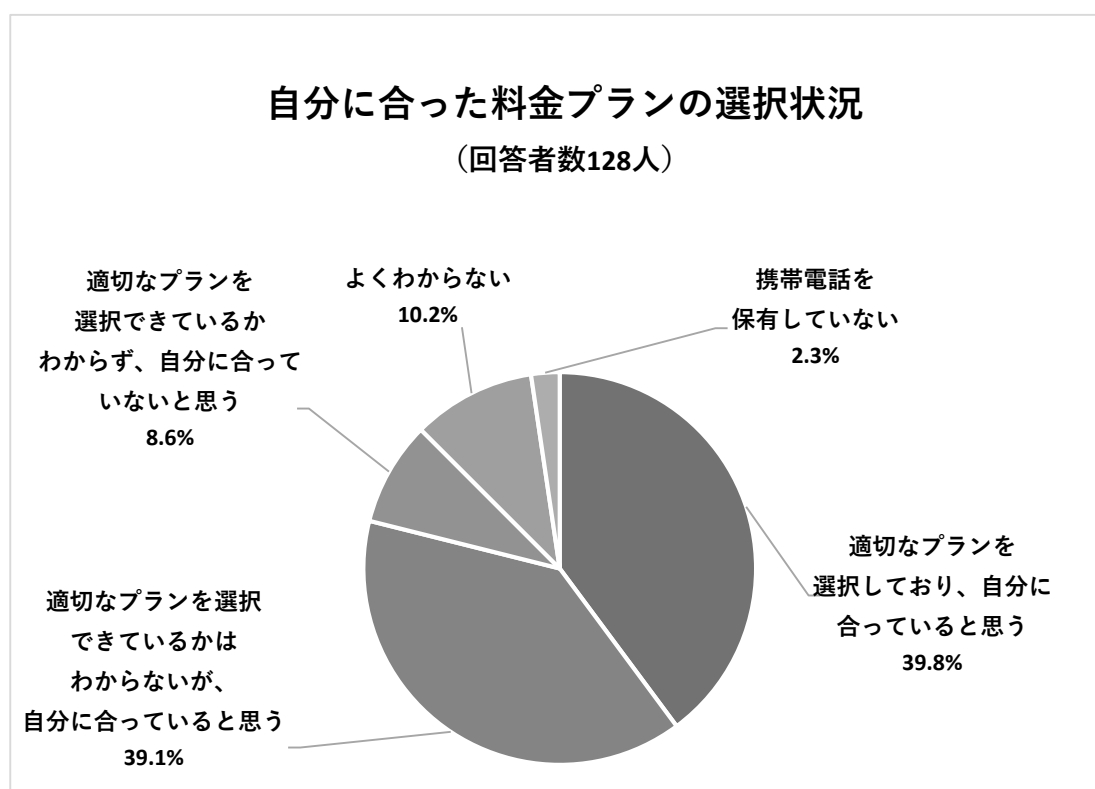
## II 調査結果

### 1 携帯電話サービスについて

問1 自分に合った携帯料金プランになっていると思いますか。(1つ選択)

<回答結果>

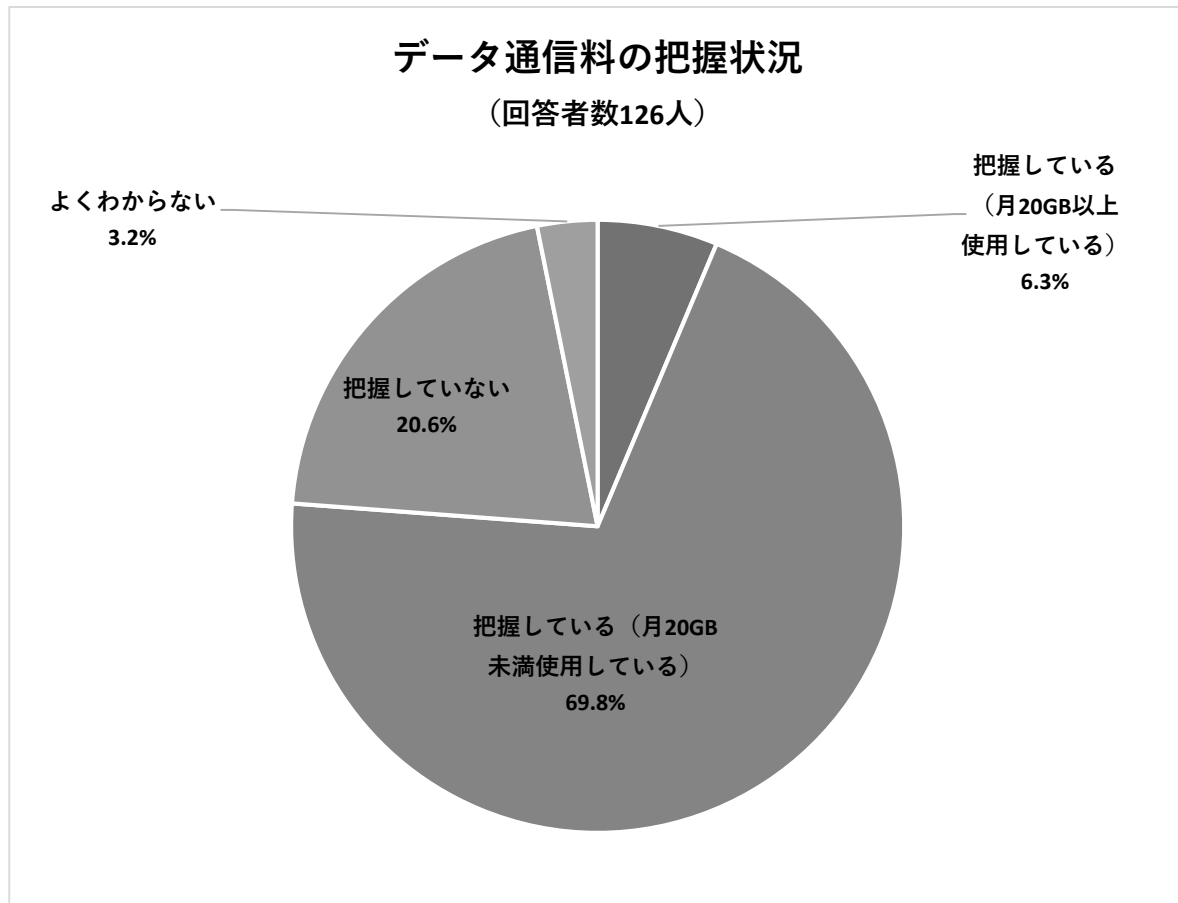
自分に合った携帯料金プランになっていると思うかについて、「適切なプランを選択しており、自分に合っていると思う」が39.8%で最も多く、「適切なプランを選択できているかはわからないが、自分に合っていると思う」が39.1%、「よくわからない」が10.2%であった。



**問2** 携帯電話のデータ通信料を把握していますか。(1つ選択)

<回答結果>

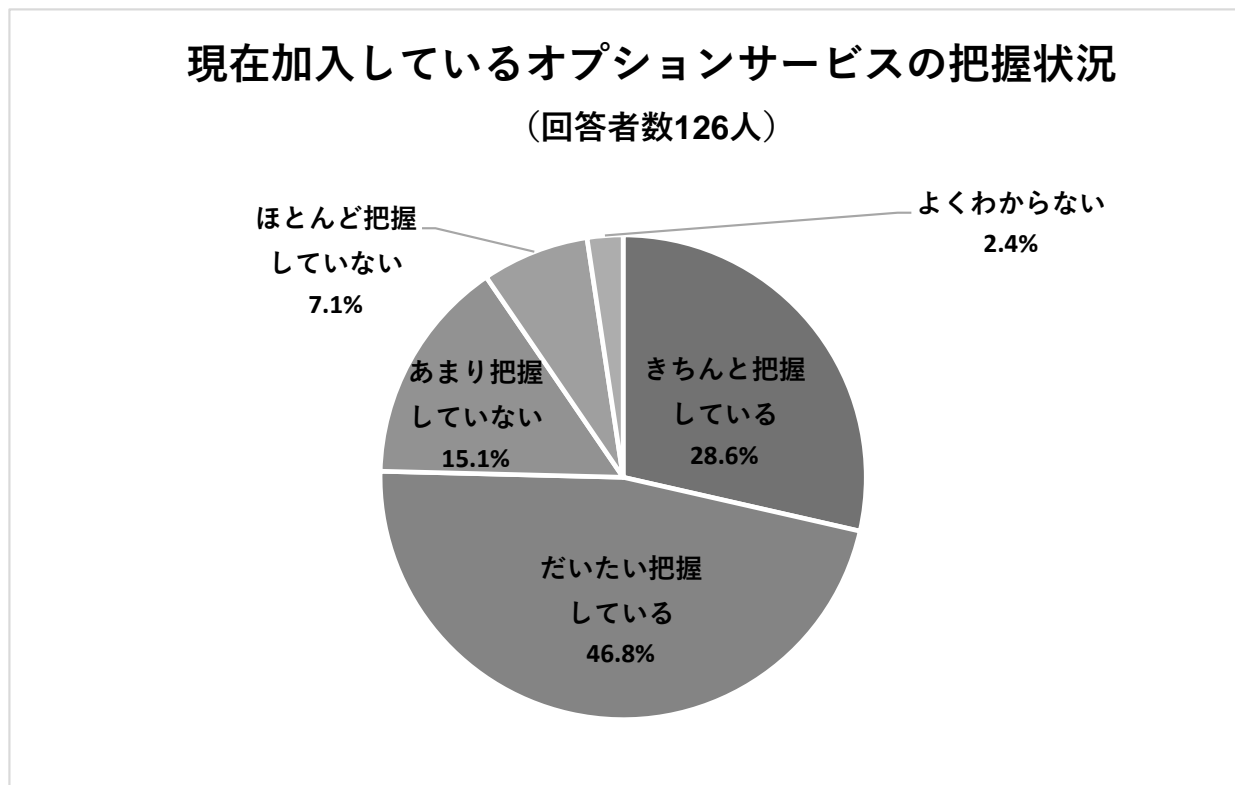
携帯電話のデータ通信量を把握しているかについて、「把握している(月20GB未満使用している)」が69.8%で最も多く、「把握していない」が20.6%、「把握している(月20GB以上使用している)」が6.3%であった。



問3 現在どのようなオプションサービスに加入しているか把握していますか。(1つ選択)

<回答結果>

現在どのようなオプションサービスに加入しているかについて、「だいたい把握している」が46.8%で最も多く、「きちんと把握している」が28.6%、「あまり把握していない」が15.1%であった。また、「ほとんど把握していない」が7.1%であった。

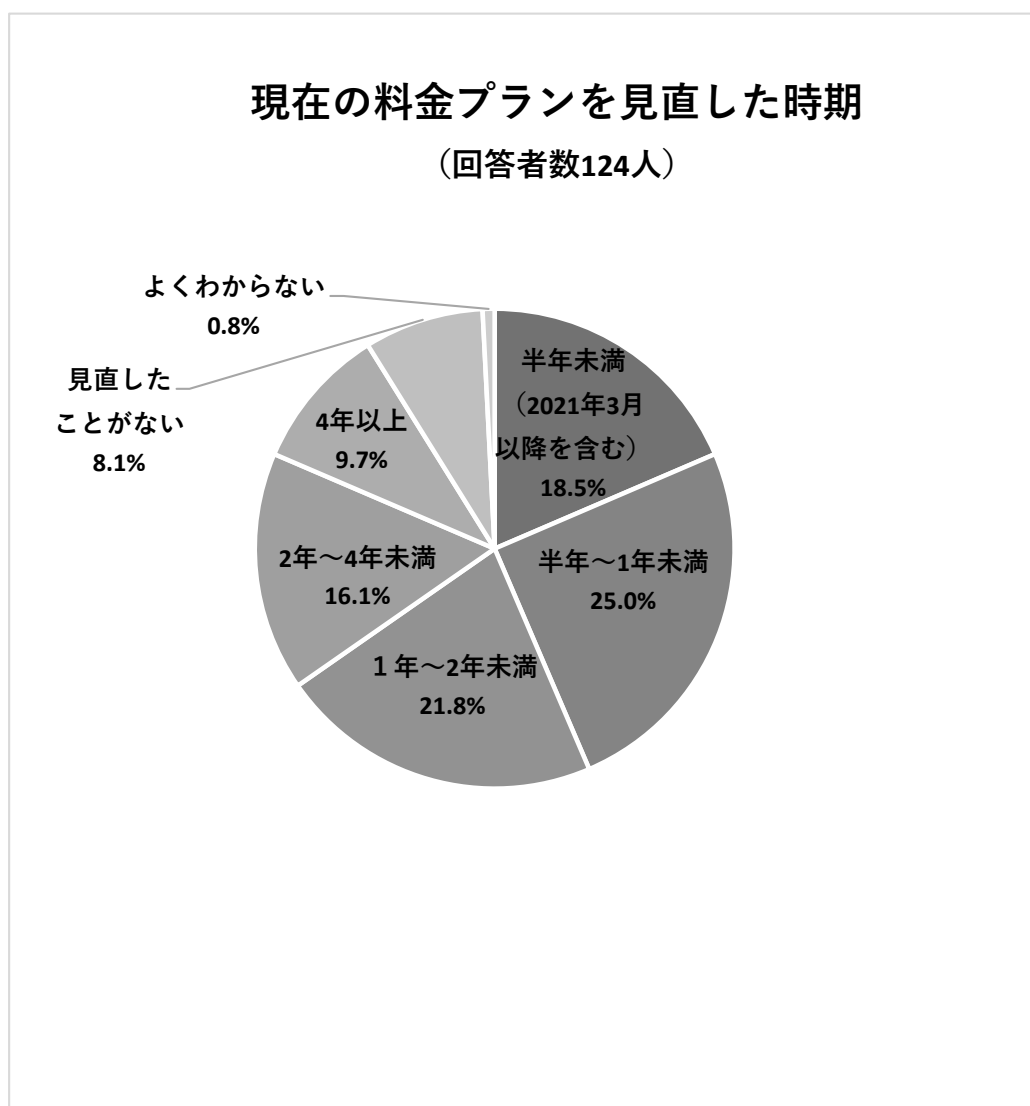




問4(1) 現在の料金プランを最後に見直したのはいつですか。(1つ選択)

<回答結果>

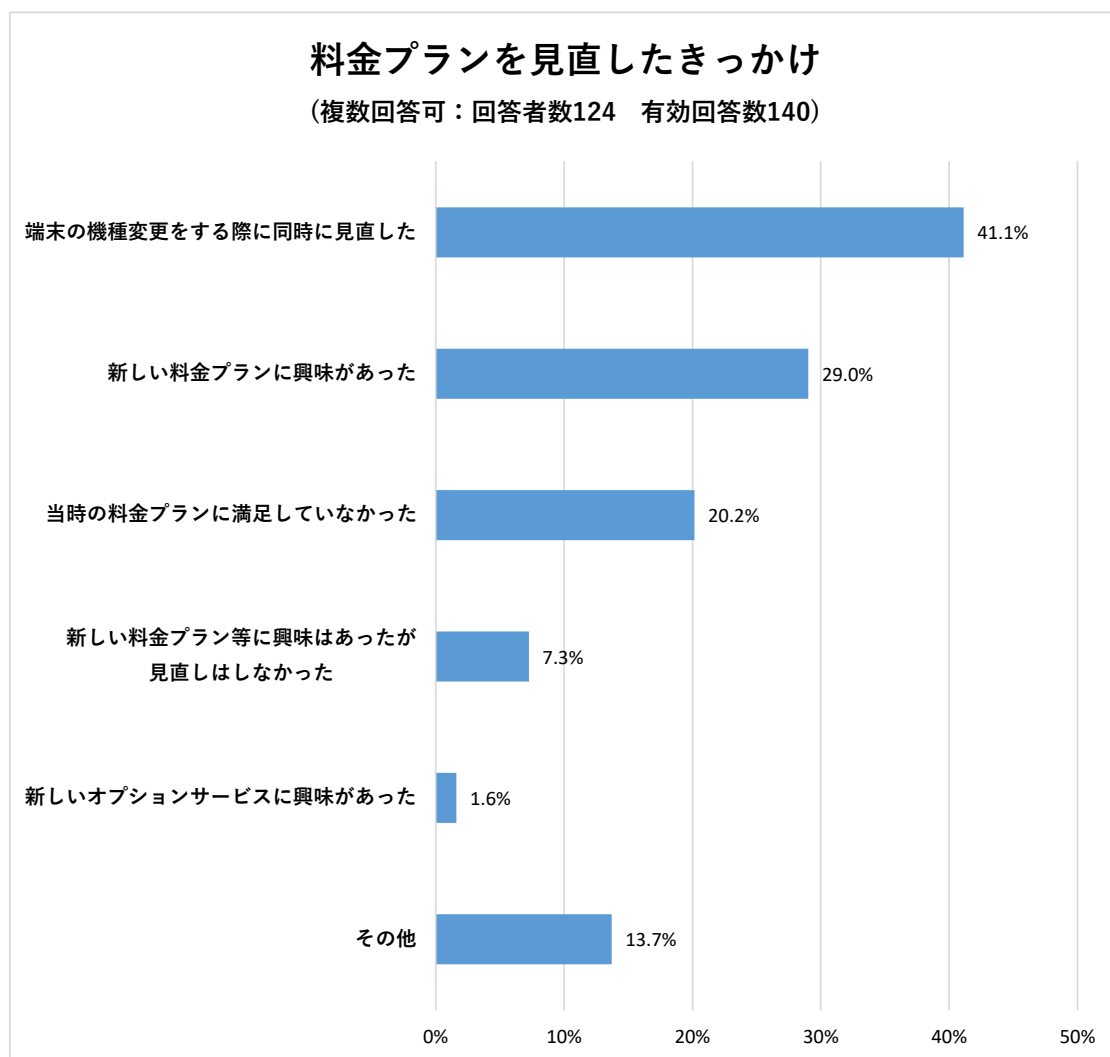
現在の料金プランを最後に見直したのはいつかについて、「半年～1年未満」が25.0%で最も多く、「1年～2年未満」が21.8%、「半年未満(2021年3月以降を含む)」が18.5%であった。



問4(2) 料金プランを見直したきっかけ等は何ですか。(複数回答可)

<回答結果>

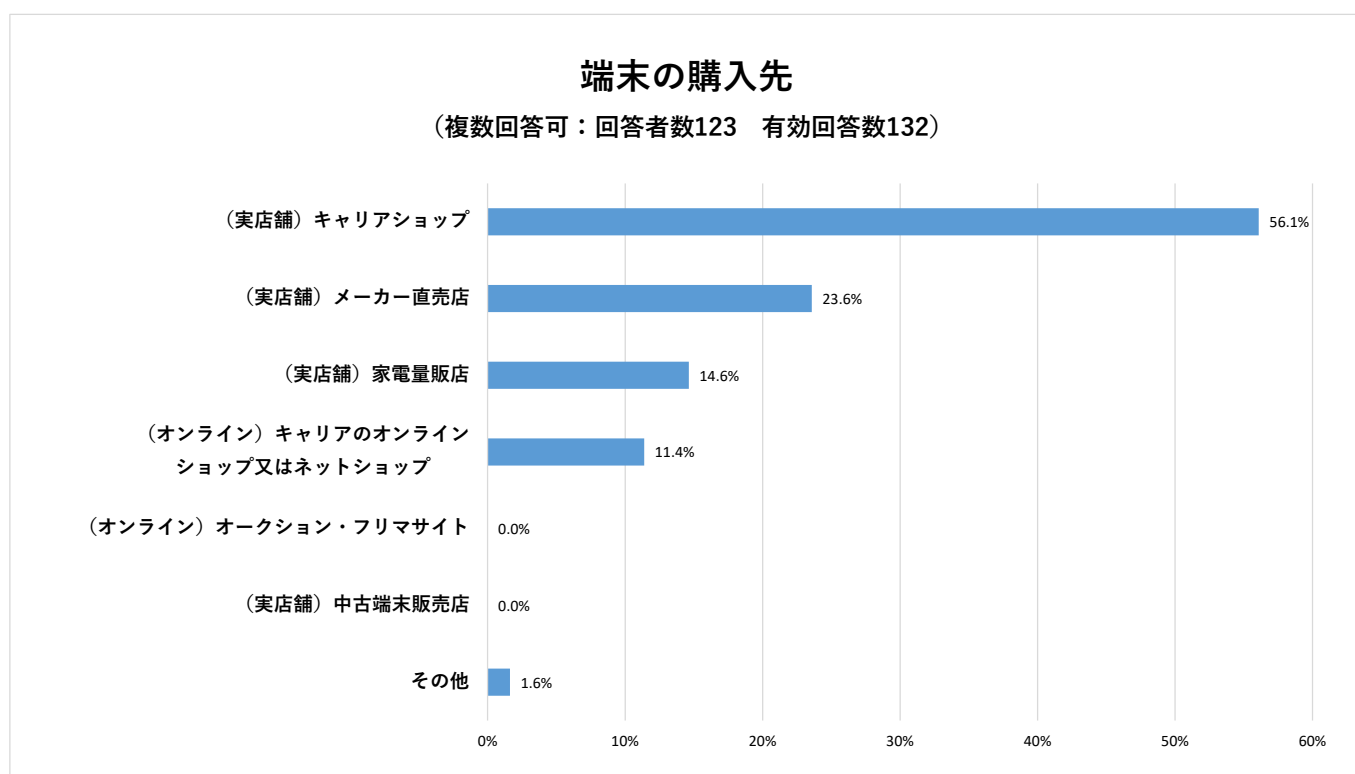
料金プランを最後に見直したきっかけ等について、「端末の機種変更をする際に同時に見直した」が41.1%で最も多く、「新しい料金プランに興味があった」が29.0%、「当時の料金プランに満足していなかった」が20.2%であった。また、「新しいプラン等に興味はあったが見直しはしなかった」が7.3%であった。



問5(1) 携帯電話端末をどこで購入していますか。(複数回答可)

<回答結果>

携帯電話端末をどこで購入しているかについて、「(実店舗) キャリアショップ」が 56.1%で最も多く、「(実店舗) メーカー直売店」が 23.6%、「(実店舗) 家電量販店」が 14.6%、「(オンライン) キャリアのオンラインショップ又はネットショップ」が 11.4%であった。



問5(2) 実店舗／オンラインで購入する理由は何ですか。(自由記入)

<回答結果>

**【実店舗で購入する理由】**

最も多かった理由は、「店員にプランの詳細や機種ごとの操作について、質問や相談ができるから」といった内容であり、次いで「実物を見て選びたいから」、「設定や機械の操作に不安があるから」等の理由が挙げられた。

なお、「自宅から近いから」、「家電量販店のポイントを貯めるため」、「知り合いが働いているから」といった回答もあった。

**【オンラインで購入する理由】**

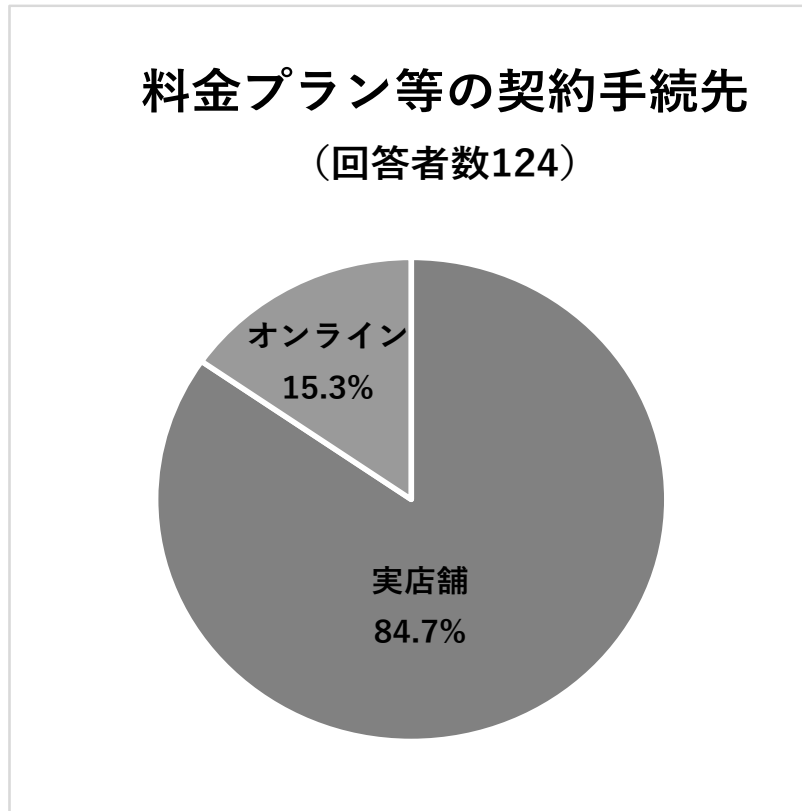
最も多かった理由としては、「オンライン限定の特典やキャンペーン、安価なプランがあるから」といった内容であり、次いで「自宅からオンラインで申し込むため手軽だから」、「店舗での待ち時間が必要なから」、「中古の端末が使用できるから」等の理由が挙げられた。

このほか、「実店舗で機種を検討し、オンラインの特典を利用する」、「実店舗では機種やプランを検討しながら購入でき、オンラインは手軽で特典が多いのでそのときに応じ使い分ける」といった回答もあった。

問6(1) 携帯電話の料金プランやオプションサービスの申込みなどの契約手続きはどこで行って  
いますか。(1つ選択)

<回答結果>

携帯電話の料金プランやオプションサービスの申込みなどの契約手続きをどこで行っているかにつ  
いては、「実店舗」が84.7%、「オンライン」が15.3%であった。



問6(2) 実店舗／オンラインで契約手続きを行う理由は何ですか。(自由記入)

<回答結果>

**【実店舗で契約手続きを行う理由】**

最も多かった理由は、「店員に質問や相談しながら契約手続きをしたいから」といった内容であり、次いで「設定等を自分でできないから」、「使用方法を教えてもらえるから」、「契約内容が難しくて理解しにくいから」、「オンラインでの申し込みは不備があったら困るから」等の理由が挙げられた。

なお、「割引などはよく変更があり、なるべく誤解のないようにしたいから」、「アフターケアも安心して任せられるから」、「ついでに他のことも聞けるから」といった回答もあった。

**【オンラインで契約手続きを行う理由】**

最も多かった理由は、「オンライン申込み専用の料金プランだから」、「手続きが早く済むから」、といった内容であり、次いで「ネットで十分情報収集できるから」、「人と会わずに済み、自宅から契約できるから」等の理由が挙げられた。

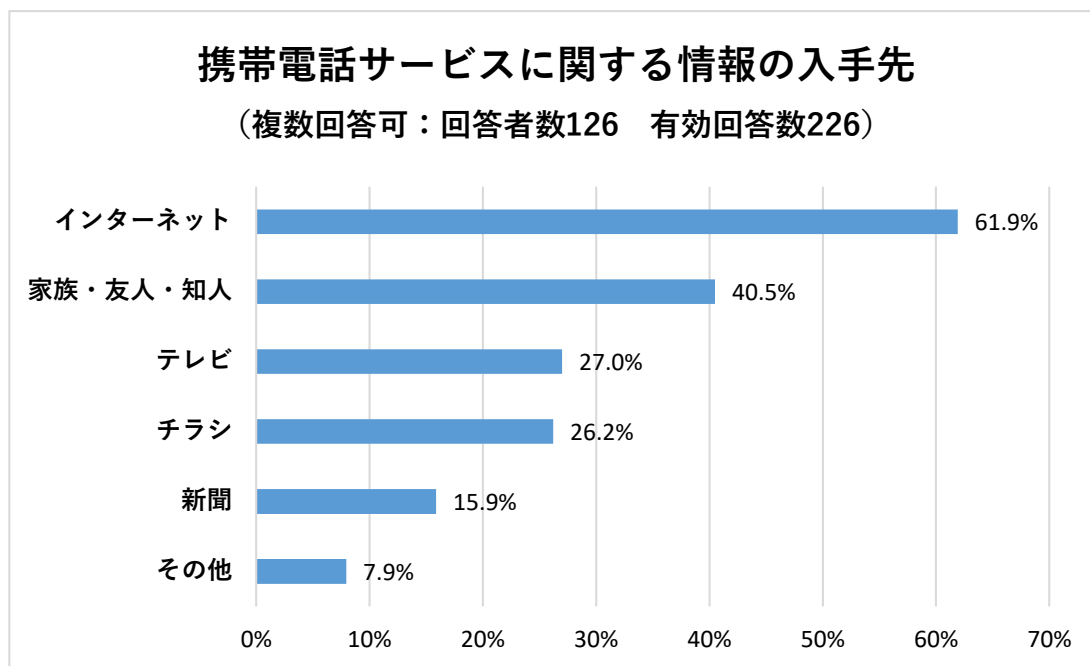
なお、「店舗は店員が少なく、新規契約以外の相談がしづらいから」、「断りやすいから」といった回答もあった。

このほか、「簡単なものはオンラインで、分からなかったら店舗に行く」、「実店舗で情報収集し、その後オンラインで契約する」等、必要に応じ実店舗とオンラインを使い分けるといった回答もあった。

**問7** 携帯電話サービスに関する情報をどこで入手していますか。(複数回答可)

<回答結果>

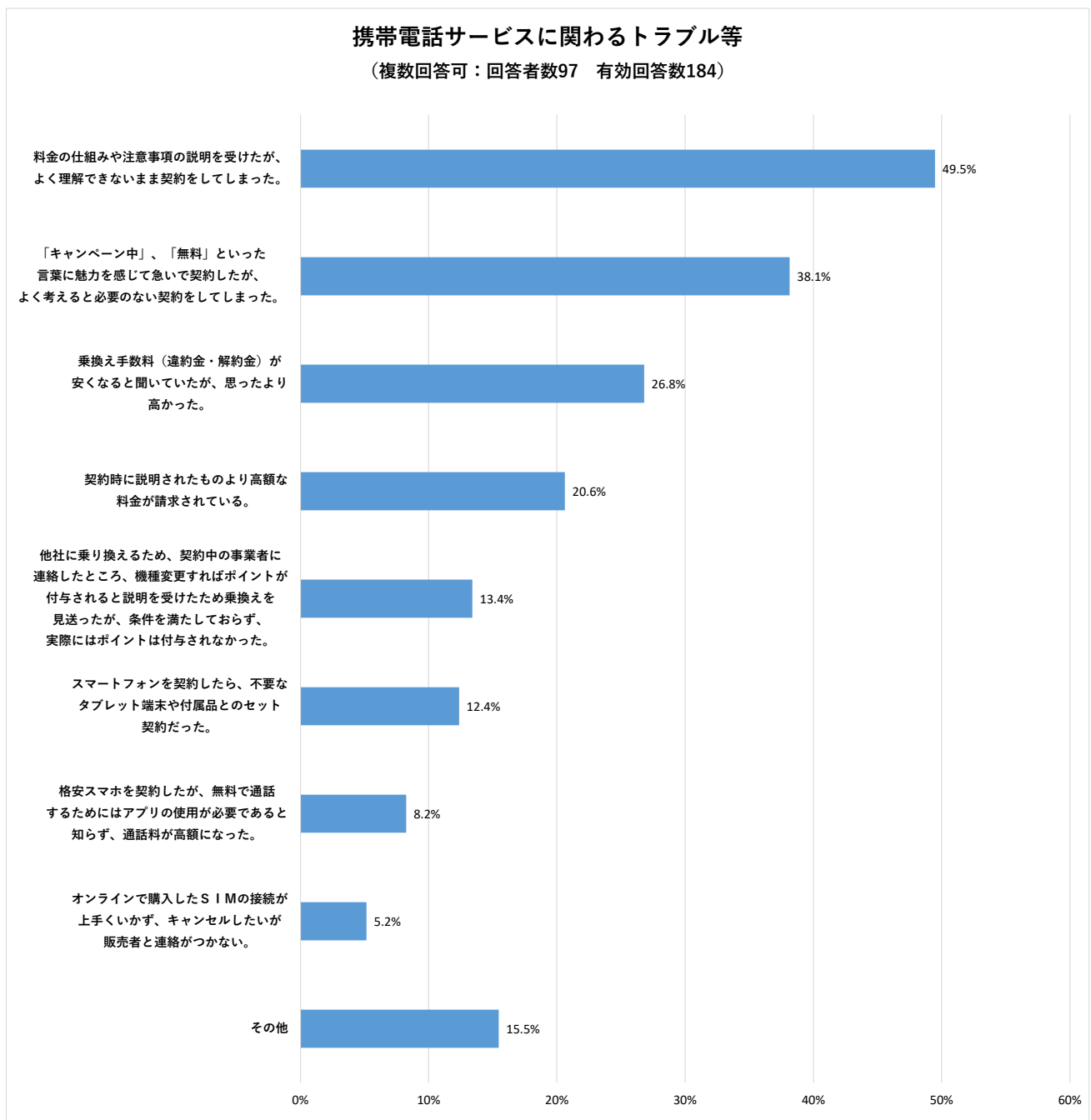
携帯電話サービスに関する情報をどこで入手しているかについては、「インターネット」が61.9%で最も多く、「家族・友人・知人」が40.5%、「テレビ」が27.0%、「チラシ」が26.2%であった。



**問8** 携帯電話サービスについて経験した、あるいは見聞きしたことがあるトラブル等がありますか。(複数回答可)

<回答結果>

携帯電話サービスに関わるトラブル等については、「料金の仕組みや注意事項の説明を受けたが、よく理解できないまま契約をしてしまった」が49.5%で最も多く、「『キャンペーン中』、『無料』といった言葉に魅力を感じて急いで契約したが、よく考えると必要のない契約をしてしまった」が38.1%、「乗換え手数料(違約金・解約金)が安くなると聞いていたが、思ったより高かった」が26.8%、「契約時に説明されたものより高額な料金が請求されている」が20.6%であった。

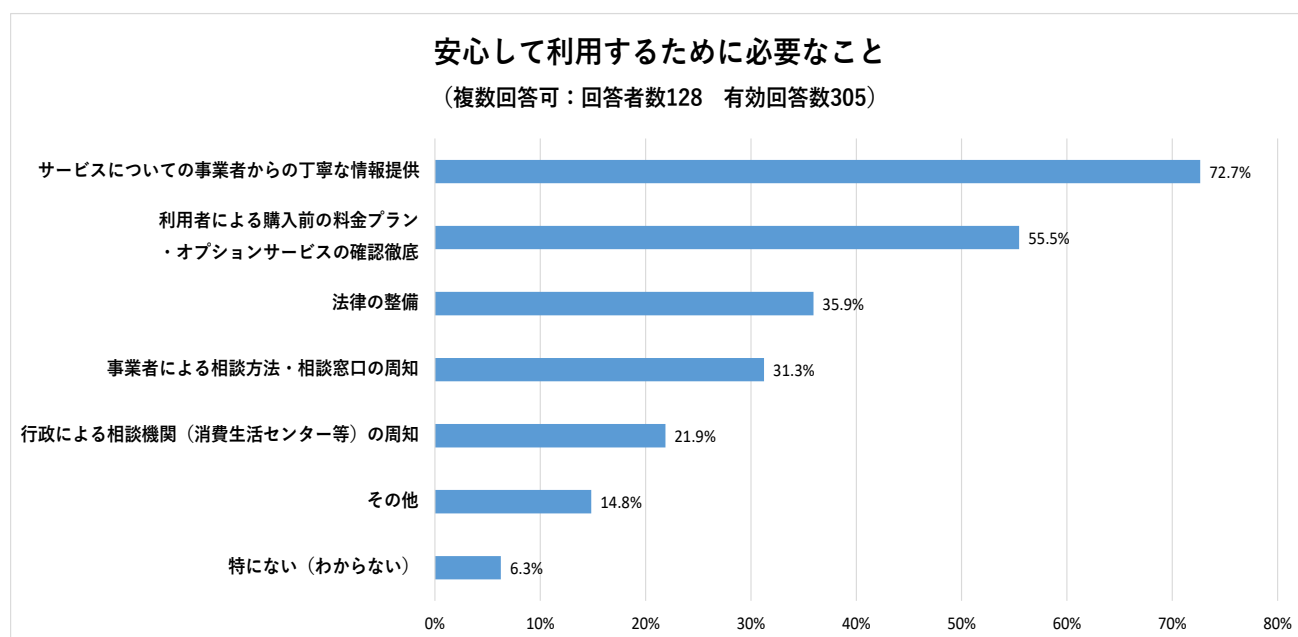




問9 安心して携帯電話サービスを利用するために必要なことは何だと思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

安心して携帯電話サービスを利用するために必要なことについては、「サービスについての事業者からの丁寧な情報提供」が72.7%で最も多く、「利用者による購入前の料金プラン・オプションサービスの確認徹底」が55.5%、「法律の整備」が35.9%、「事業者による相談方法・相談窓口の周知」が31.3%、「行政による相談機関（消費生活センター等）の周知」が21.9%であった。

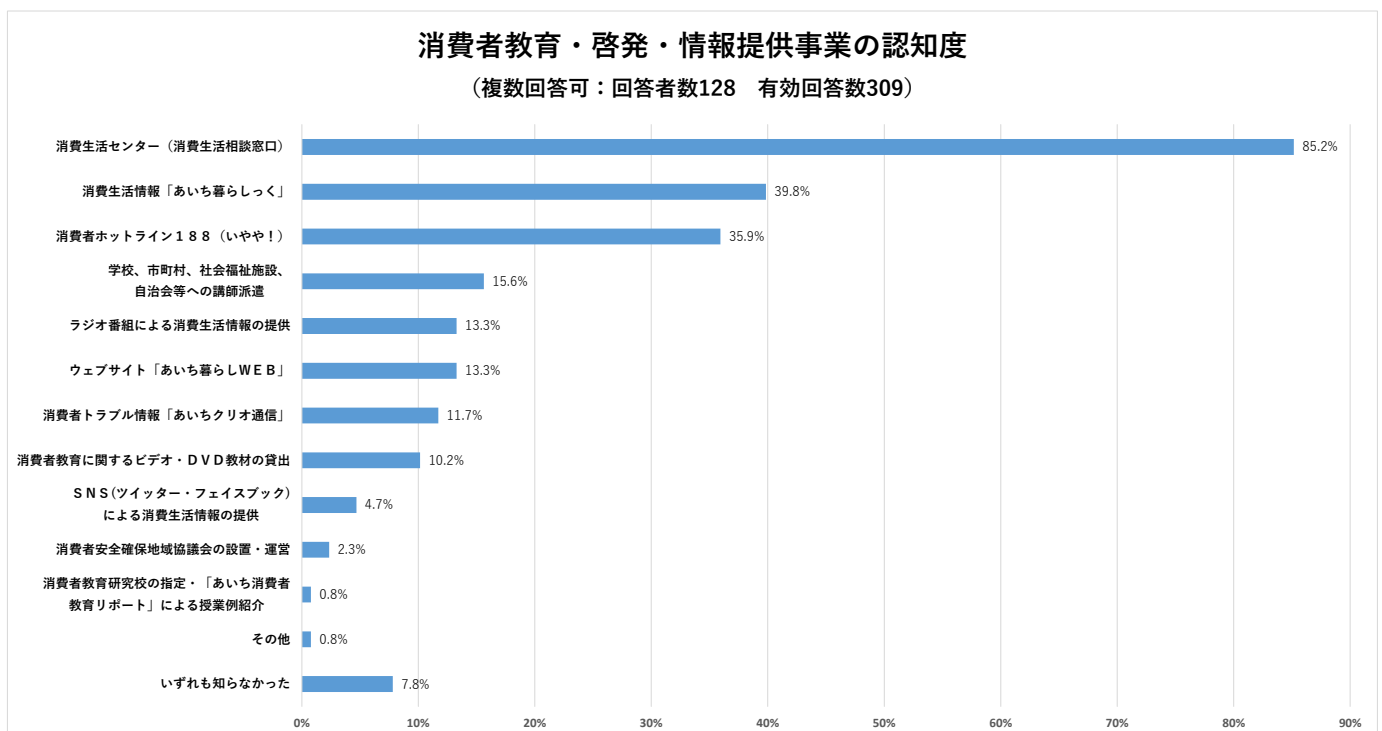


## 2 消費者教育・啓発・情報提供事業について

問 10 消費生活センターの設置や、県（県民生活課）が行っている定例の消費者教育・啓発・情報提供事業について、消費生活モニターになる以前から知っていたものはありますか。知っていたものを回答してください。（複数回答可）

### <回答結果>

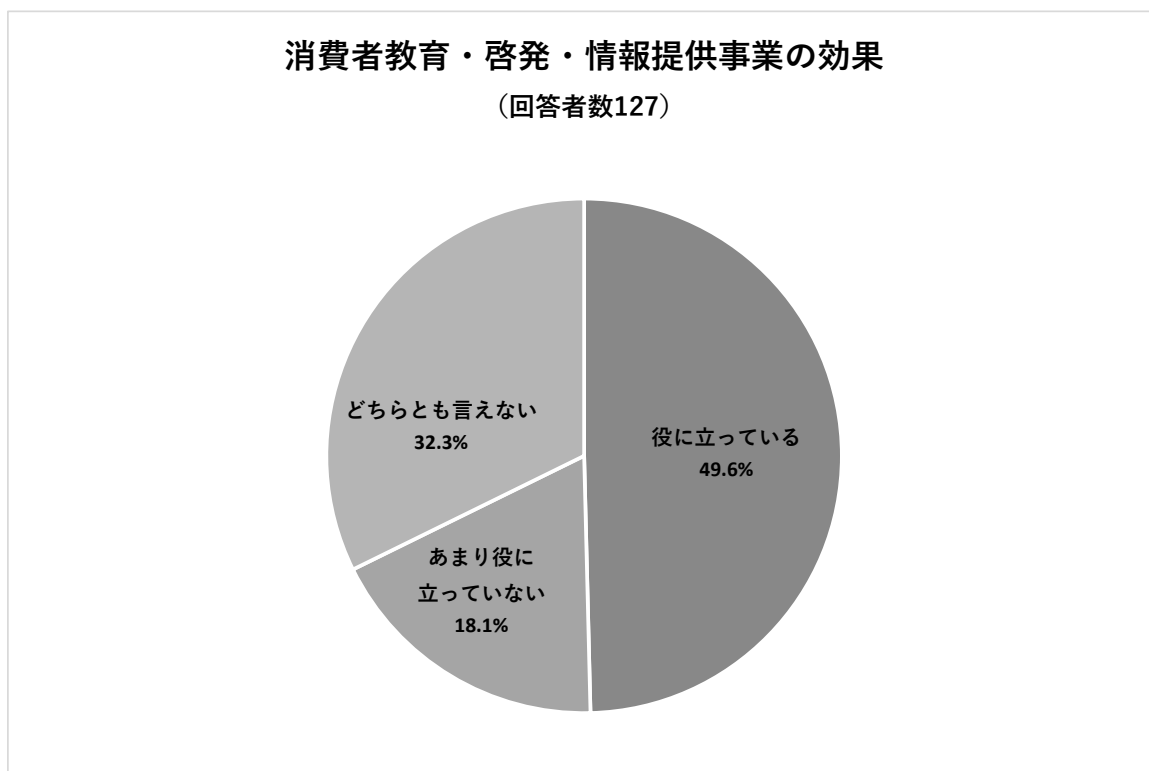
消費者教育・啓発・情報提供事業について知っていたものは、「消費生活センター（消費生活相談窓口）」が 85.2%で最も多く、「消費生活情報『あいち暮らしっく』」が 39.8%、「消費者ホットライン188（いやや!）」が 35.9%、「学校、市町村、社会福祉施設、自治会等への講師派遣」が 15.6%、「ラジオ番組による消費生活情報の提供」が 13.3%、「ウェブサイト『あいち暮らしWEB』」が 13.3%、「消費者トラブル情報『あいちクリオ通信』」が 11.7%、「消費者教育に関するビデオ・DVD教材の貸出」が 10.2%であった。



問 11 県が行っている消費者教育・啓発・情報提供事業について、消費生活の安定や向上に役立っていると思いますか。(1つ選択)

<回答結果>

県が行っている消費者教育・啓発・情報提供事業については、「役に立っている」が49.6%で最も多く、「どちらとも言えない」が32.3%、「あまり役に立っていない」が18.1%であった。



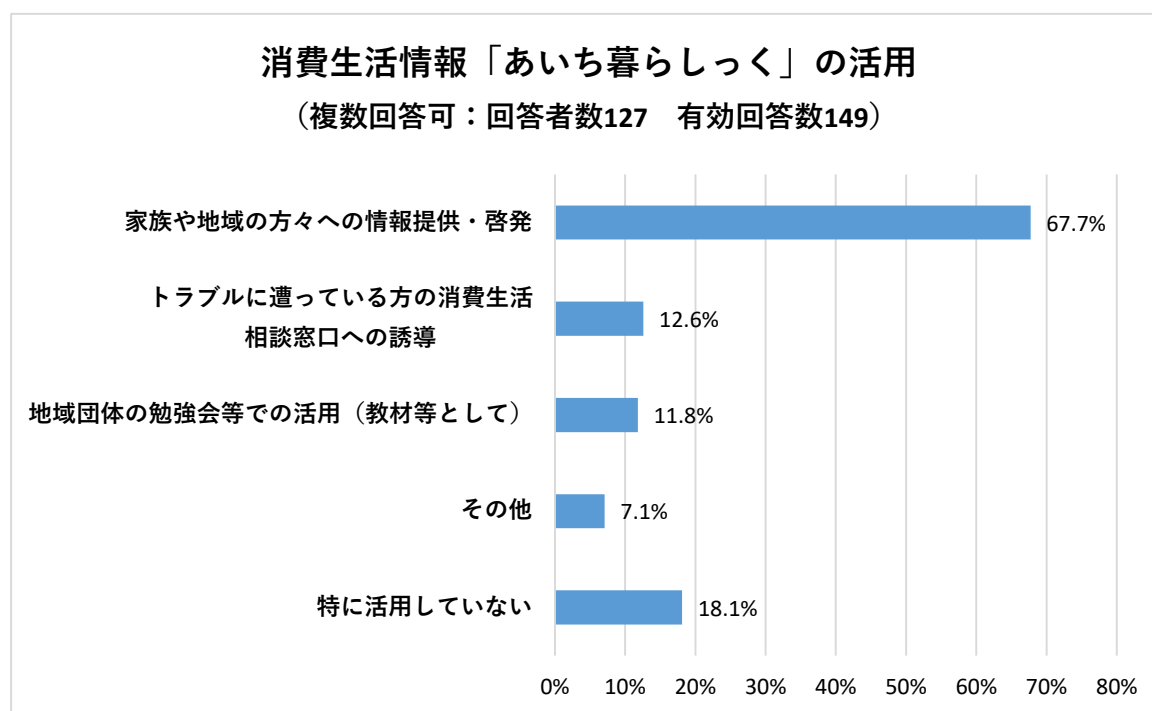
「あまり役に立っていない」理由としては、「周知されていない」、「教育、啓発、情報提供の機会が少ない」、「PR不足」などが挙げられた。

また、その改善策としては、「学校や自治体などを活用して啓発する」「新聞、テレビ、ラジオや市町村の広報を活用する」などが挙げられた。

**問 12** 県では消費生活情報「あいち暮らしっく」を年に6回発行し、消費生活モニターの皆様へ郵送させていただきます。どのようにご利用いただいておりますか。（複数回答可）

<回答結果>

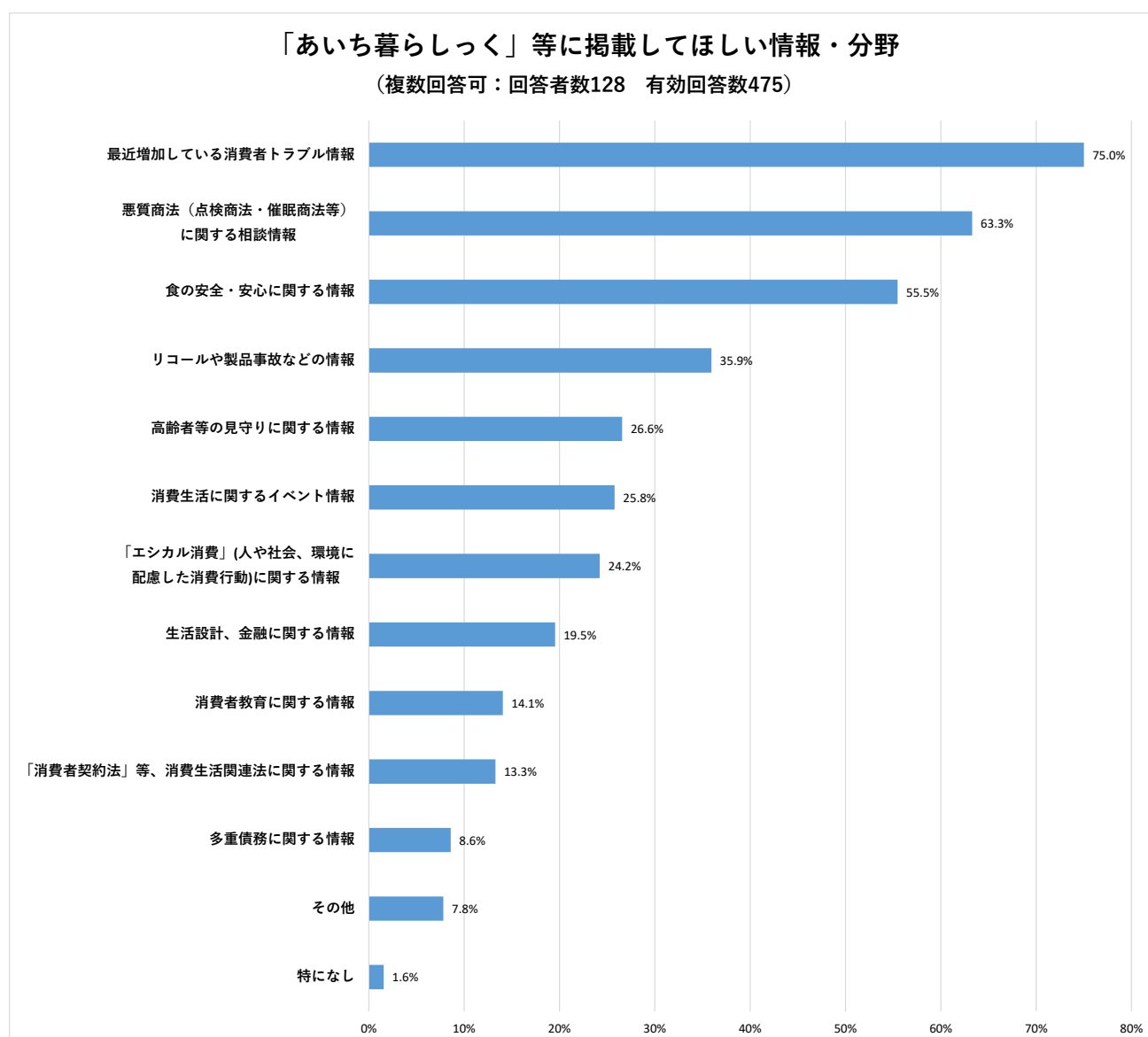
消費生活情報「あいち暮らしっく」について、「家族や地域の方々への情報提供・啓発」が67.7%で最も多く、「トラブルに遭っている方の消費生活相談窓口への誘導」が12.6%、「地域団体の勉強会等での活用（教材等として）」が11.8%、「特に活用していない」が18.1%であった。



問 13 消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は何か。(複数回答可)

<回答結果>

消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は、「最近増加している消費者トラブル情報」が75.0%で最も多く、「悪質商法（点検商法・催眠商法等）に関する相談情報」が63.3%、「食の安全・安心に関する情報」が55.5%、「リコールや製品事故などの情報」が35.9%であった。



**問 14** 県の消費生活情報WEBサイト「あいち暮らしWEB」

(<https://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/>) 及び、エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」(<https://www.pref.aichi.jp/kenmin/ethical/>)について、どの情報をよくご覧になりますか。(複数回答可)

また、『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない や、『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない を選択された場合、その理由を記入してください。

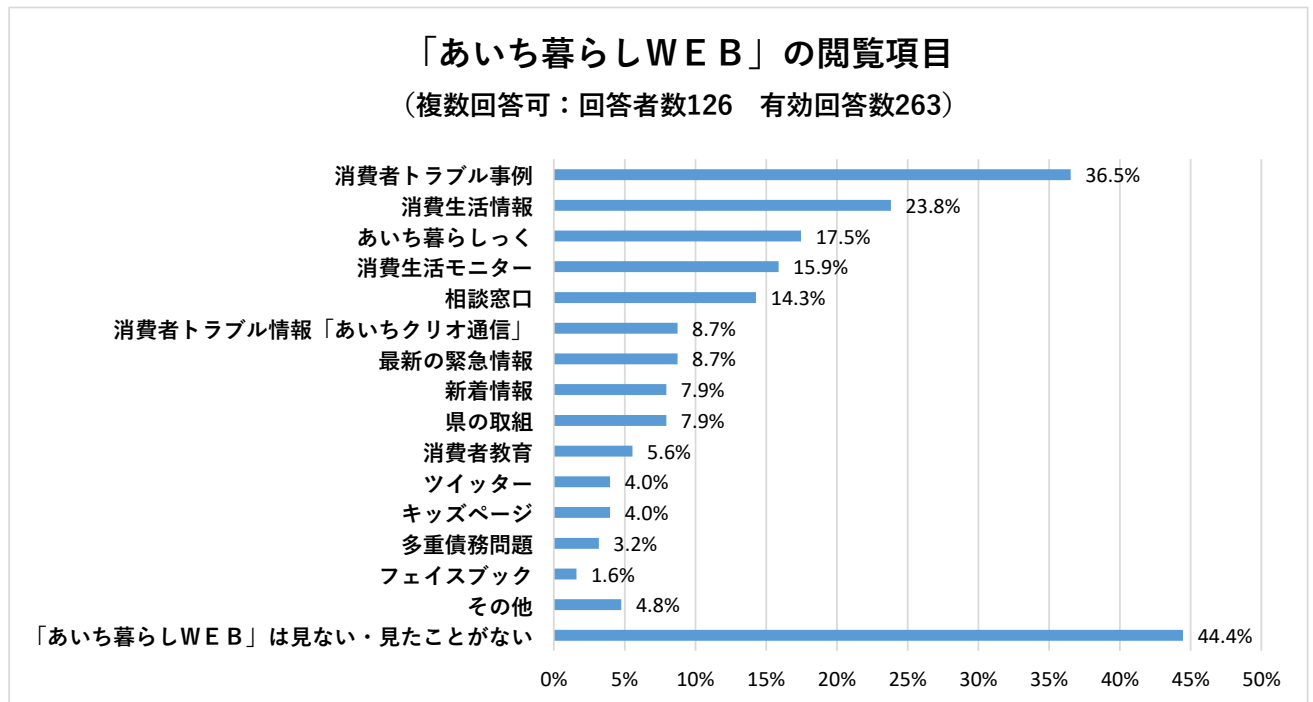
<回答結果>

**【県の消費生活情報WEBサイト「あいち暮らしWEB」について】**

「あいち暮らしWEB」でよく見られている情報は「消費者トラブル事例」が36.5%で最も多く、「消費生活情報」が23.8%、「あいち暮らしっく」が17.5%、「消費生活モニター」が15.9%であった。

一方、回答者の44.4%は『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがないと回答した。

『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない理由については、「知らなかった」、「紙で見る方がよい」、「パソコンやスマホに不慣れ」などであった。



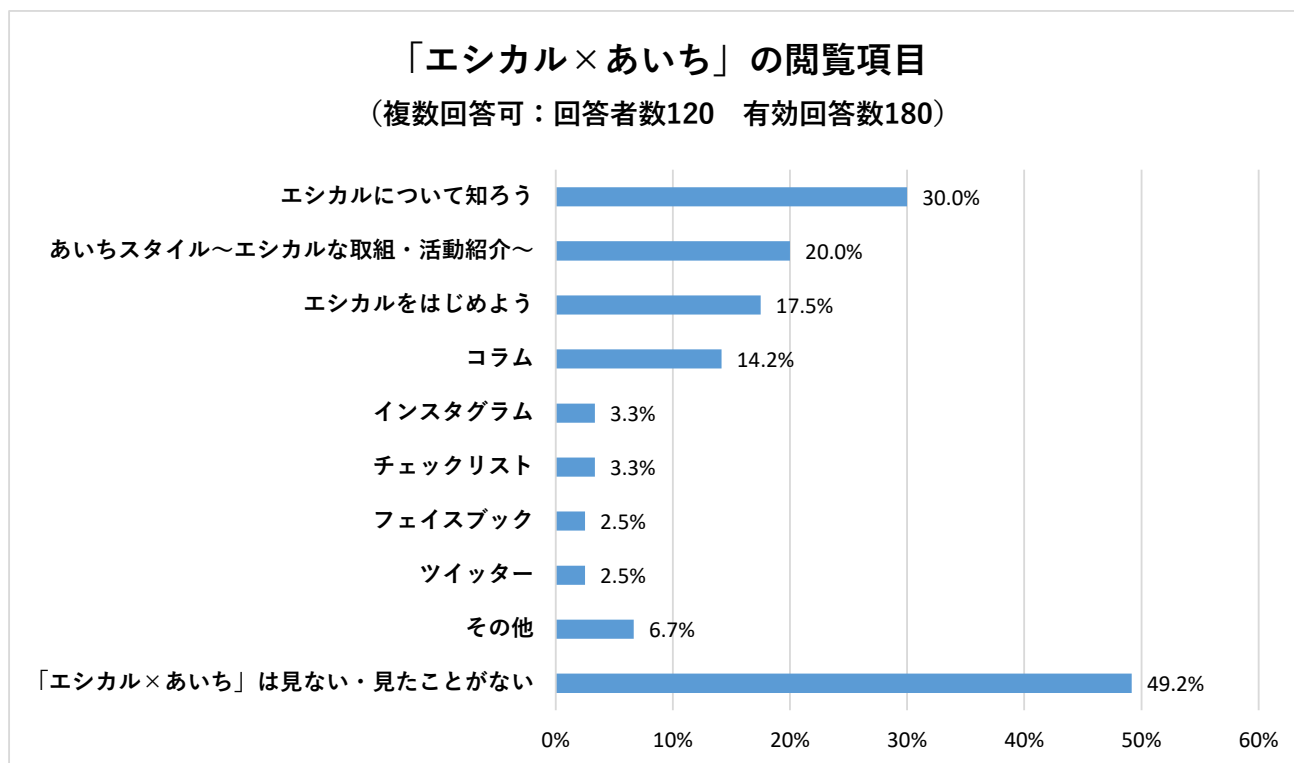
<回答結果>

【エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」について】

「エシカル消費ポータルサイト『エシカル×あいち』」でよく見られている情報は「エシカルについて知ろう」が30.0%で最も多く、「あいちスタイル～エシカルな取組・活動紹介」が20.0%、「エシカルをはじめよう」が17.5%であった。

一方、回答者の49.2%は「『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」と回答した。

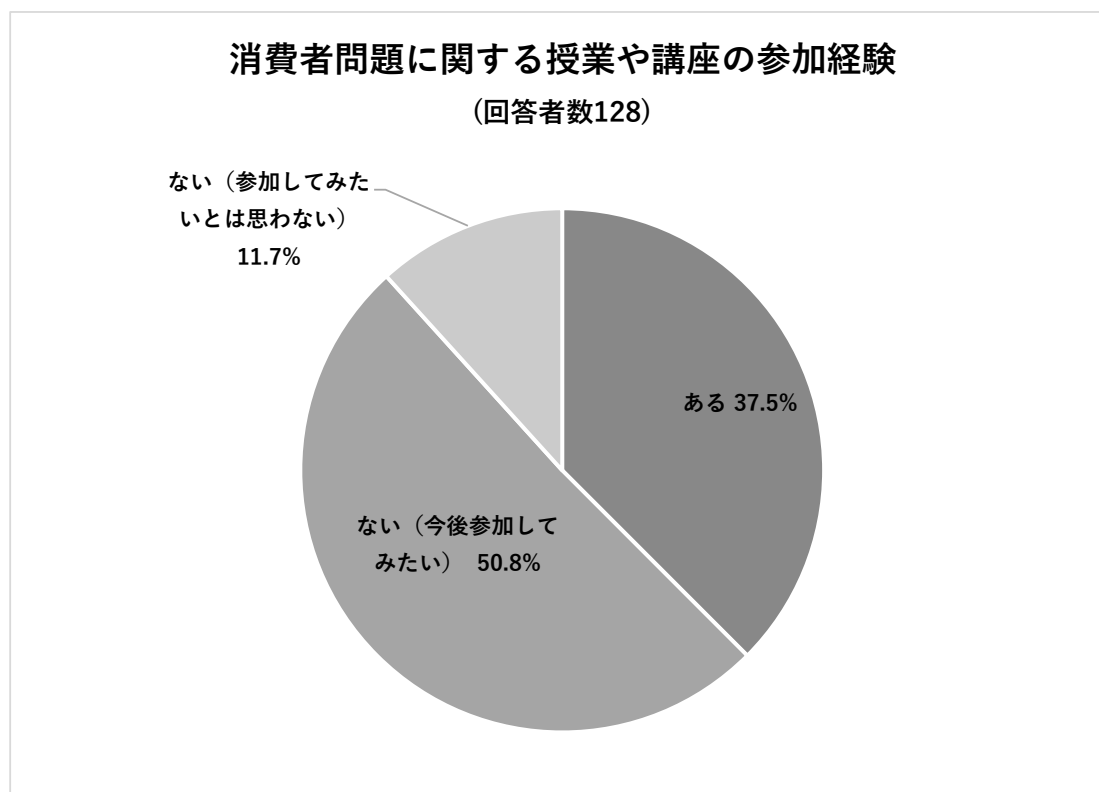
「『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」理由については、「WEBサイトの存在を知らなかった」、「紙で見る方がよい」、「パソコンで検索してまで見ない」、「テーマに興味や見る必要性を感じない」、「関心が低い」などがあつた。



問 15 消費者問題に関する授業を受けたり、講座に参加したりしたことはありますか。(1つ選択)  
また、「ない(参加してみたいとは思わない)」を選択された場合、その理由は何ですか。

<回答結果>

消費者問題に関する授業や講座の参加経験は、「ない(今後参加してみたい)」が 50.8%で最も多く、「ある」37.5%、「ない(参加してみたいとは思わない)」11.7%であった。



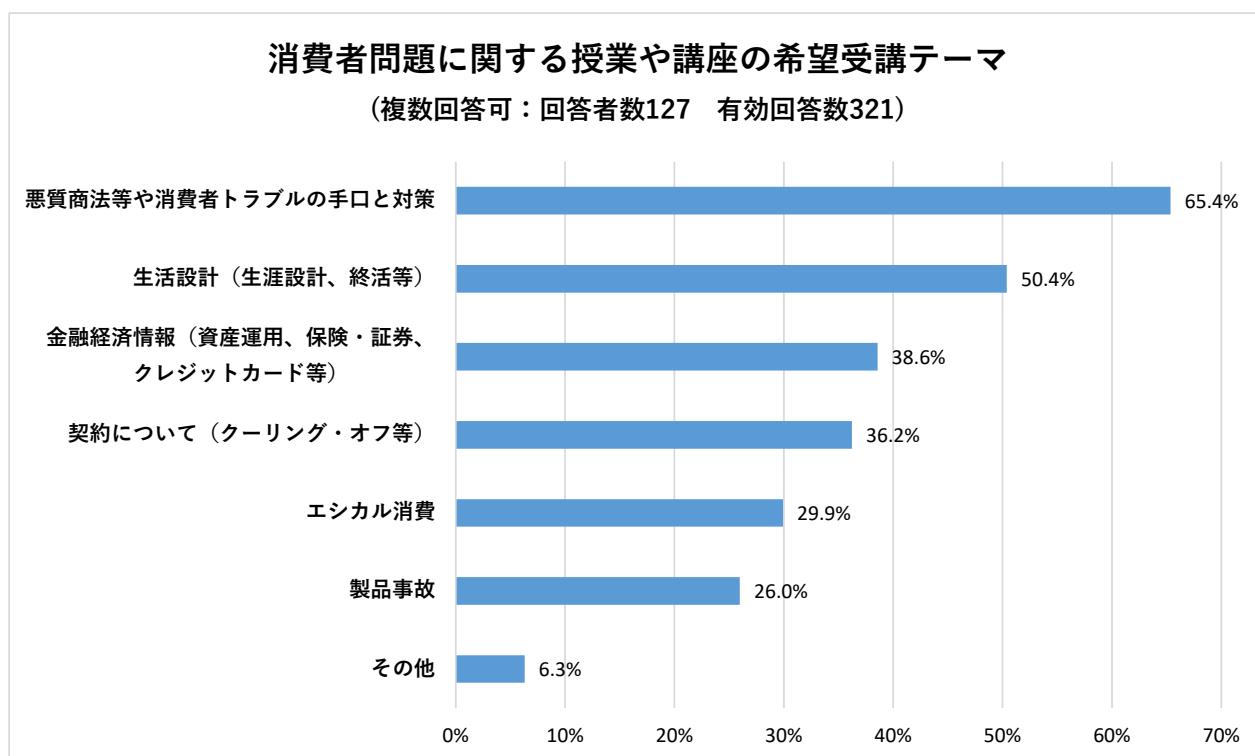
参加してみたいとは思わない理由については、「新型コロナウイルス感染予防のため、多くの人が集まる会場には行かないようにしているため」が 12 名で最も多く、「内容が難しそうであるため」、「近隣で講座等が実施されていないため」、「消費者被害の未然防止に有効であるとは思えないため」がそれぞれ 1 名であった。



問 16 あなたが消費者問題に関する授業や講座を受ける場合、どのようなテーマの受講を希望しますか。(複数回答可)

<回答結果>

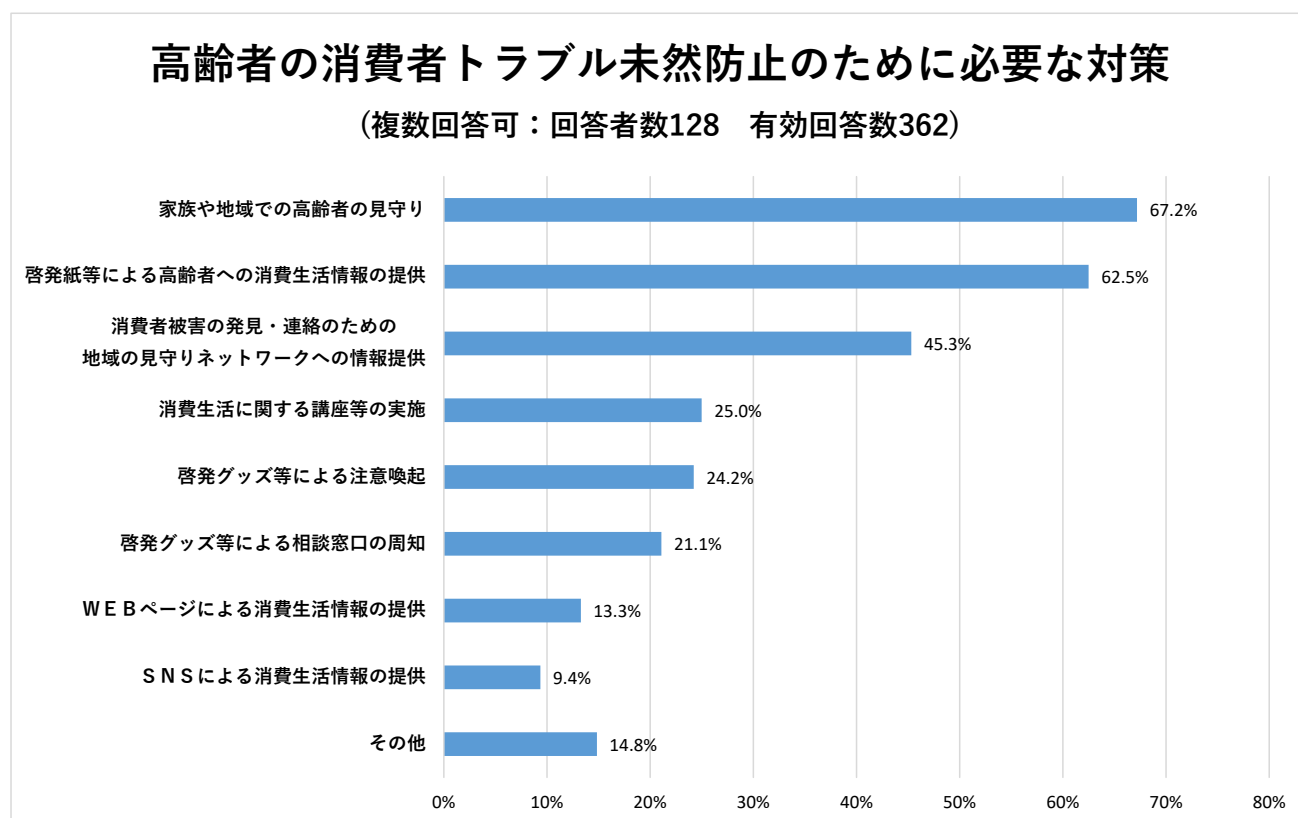
消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマは、「悪質商法等や消費者トラブルの手口と対策」が 65.4%で最も多く、「生活設計(生涯設計、終活等)」が 50.4%、「金融経済情報(資産運用、保険・証券、クレジットカード等)」が 38.6%、「契約について(クーリング・オフ等)」が 36.2%、「エシカル消費」29.9%であった。



問 17 高齢者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。  
(複数回答可)

<回答結果>

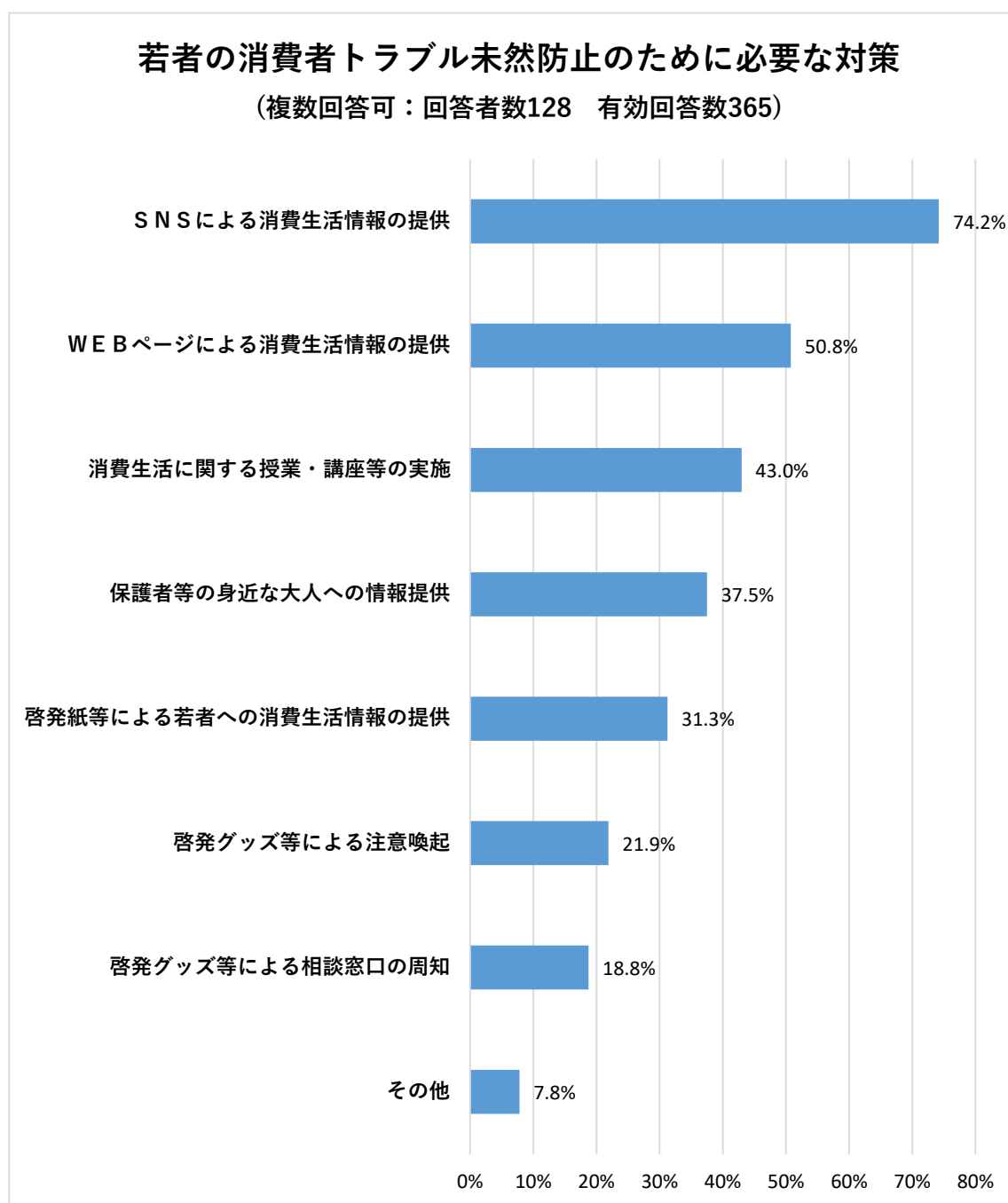
高齢者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策は、「家族や地域での高齢者の見守り」が67.2%で最も多く、「啓発紙等による高齢者への消費生活情報の提供」が62.5%、「消費者被害の発見・連絡のための地域の見守りネットワークへの情報提供」が45.3%であった。



問 18 若者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

若者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策は、「SNSによる消費生活情報の提供」が74.2%で最も多く、「WEBページによる消費生活情報の提供」が50.8%、「消費生活に関する授業・講座等の実施」が43.0%、「保護者等の身近な大人への情報提供」が37.5%であった。

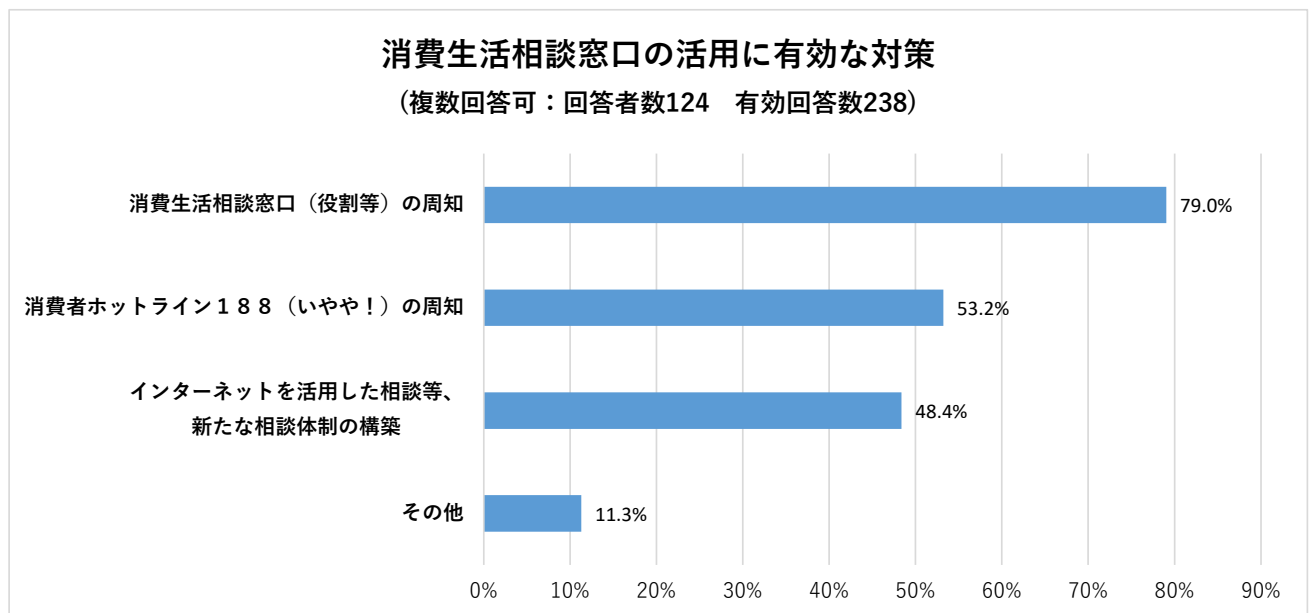


**問 19** 消費者被害に遭われた方のうち、より多くの方が消費生活相談窓口へ相談するためには、どのような対策が有効であると思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

「消費生活相談窓口（役割等）の周知」が79.0%で最も多く、「消費者ホットライン188（いやや!）の周知」が53.2%、「インターネットを活用した相談等、新たな相談体制の構築」が48.4%となった。

「その他」の回答には、「YouTube やテレビCM」、「地域の回覧板や公民館への掲示」、「電車内のつり広告」、「新聞、テレビ、ラジオ」、「チラシ」、「街頭でのPR活動」などがあつた。

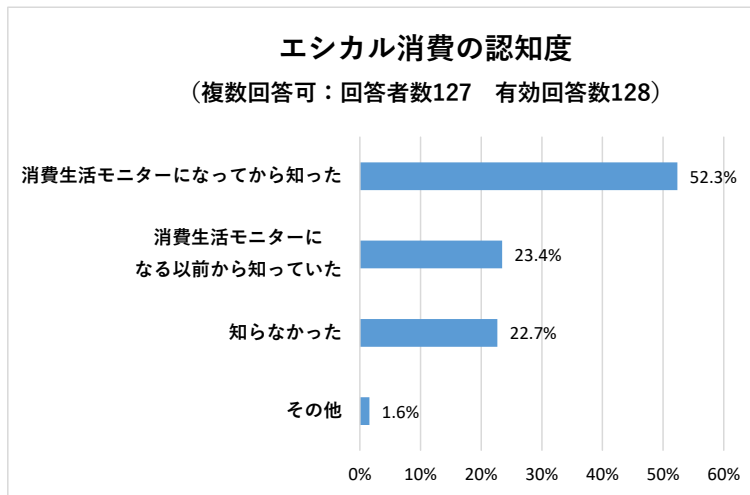


問 20 エシカル消費についてご存知ですか。

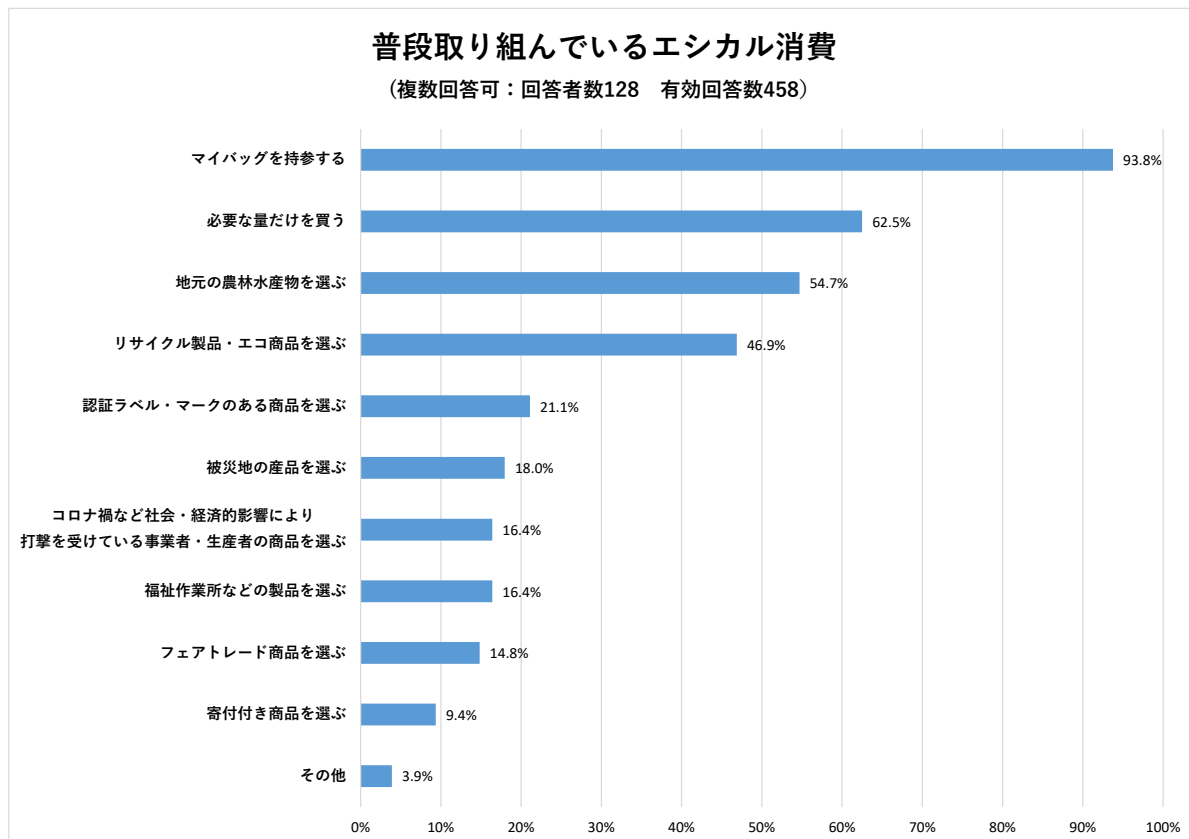
また、普段どのようなエシカル消費に取り組んでいますか。(複数回答可)

<回答結果>

エシカル消費の認知度については、「消費生活モニターになってから知った」が52.3%で最も多く、「消費生活モニターになる以前から知っていた」が23.4%、「知らなかった」が22.7%であった。



また、普段取り組んでいるエシカル消費については、「マイバッグを持参する」が93.8%で最も多く、「必要な量だけを買う」が62.5%、「地元の農林水産物を選ぶ」が54.7%、「リサイクル製品・エコ商品を選ぶ」が46.9%の順となった。

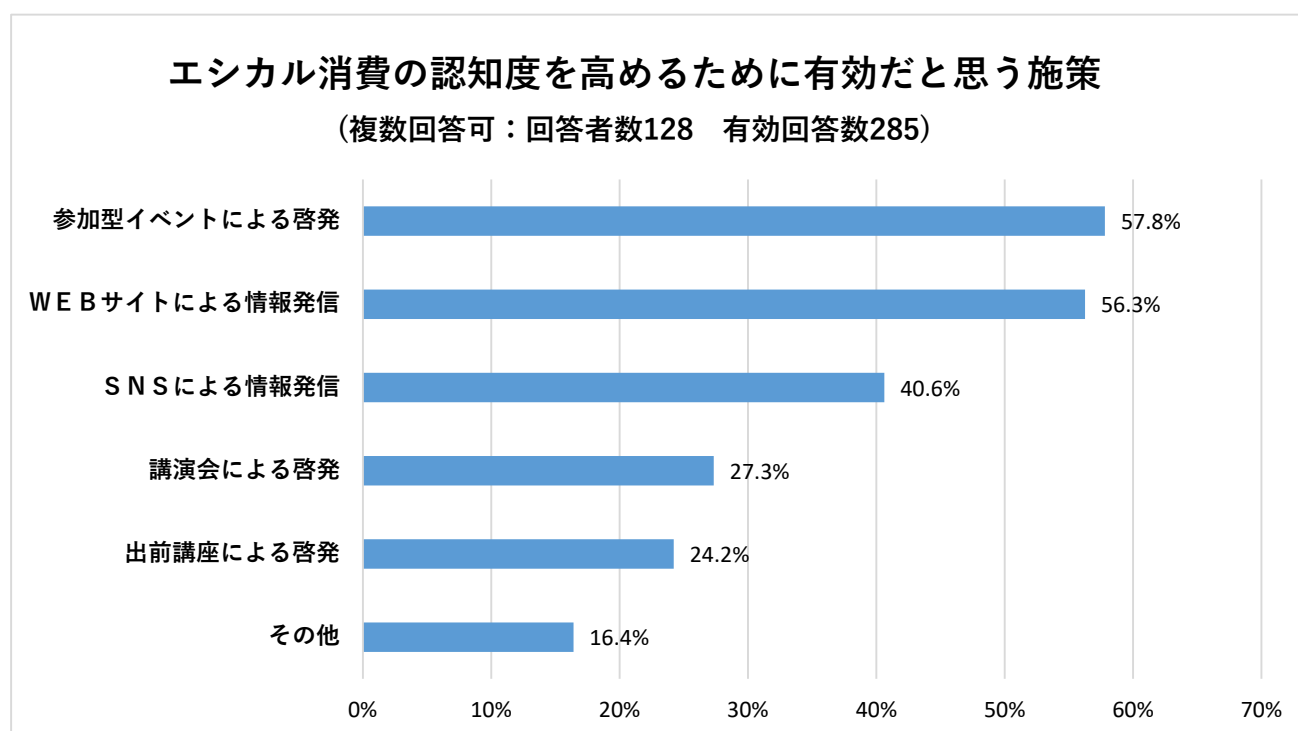


問 21 エシカル消費の認知度を高めるために、どのような施策が有効であると思われますか。(複数回答可)

<回答結果>

エシカル消費の認知度を高めるために有効な施策は、「参加型イベントによる啓発」が 57.8%で最も多く、「WEBサイトによる情報発信」が 56.3%、「SNSによる情報発信」が 40.6%、「講演会による啓発」が 27.3%であった。

「その他」の回答には、「テレビCM」、「駅構内に掲示」、「新聞広告」などがあつた。

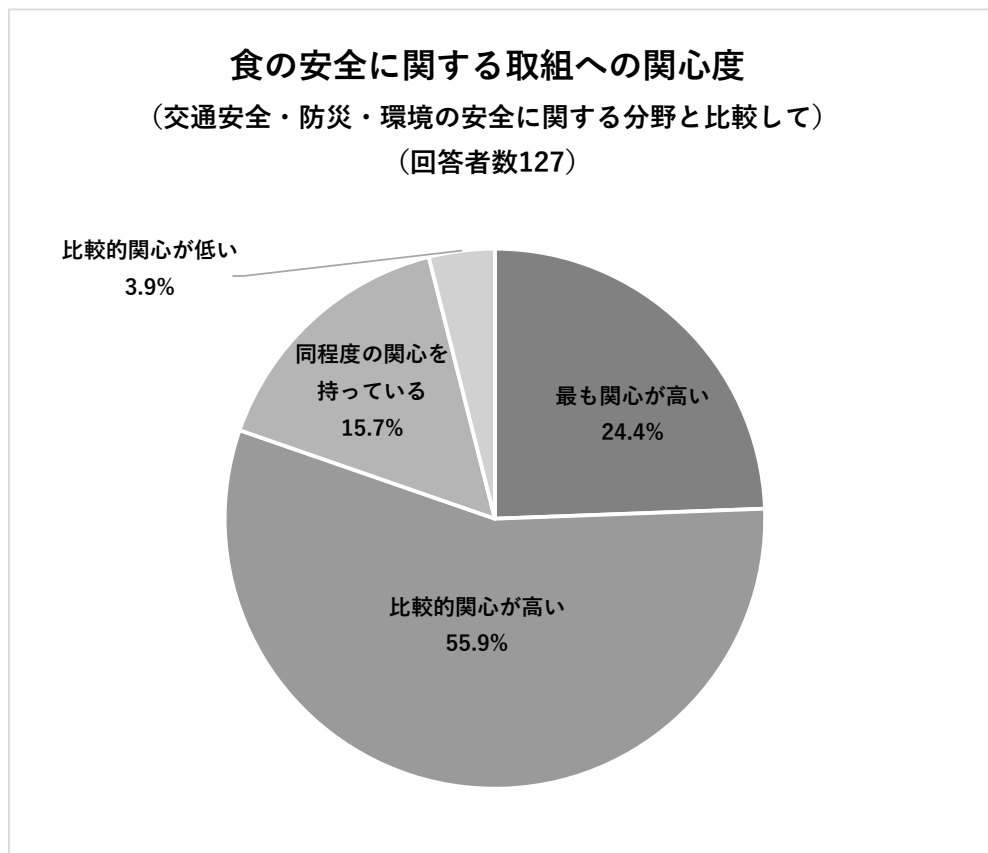


### 3 食の安全・安心について

問 22 国や地方公共団体は、交通安全、災害からの安全（防災）、環境の安全等、様々な取組を行っていますが、それらと比較して、食の安全に関する取組については、どの程度関心を持っていますか。（1つ選択）

<回答結果>

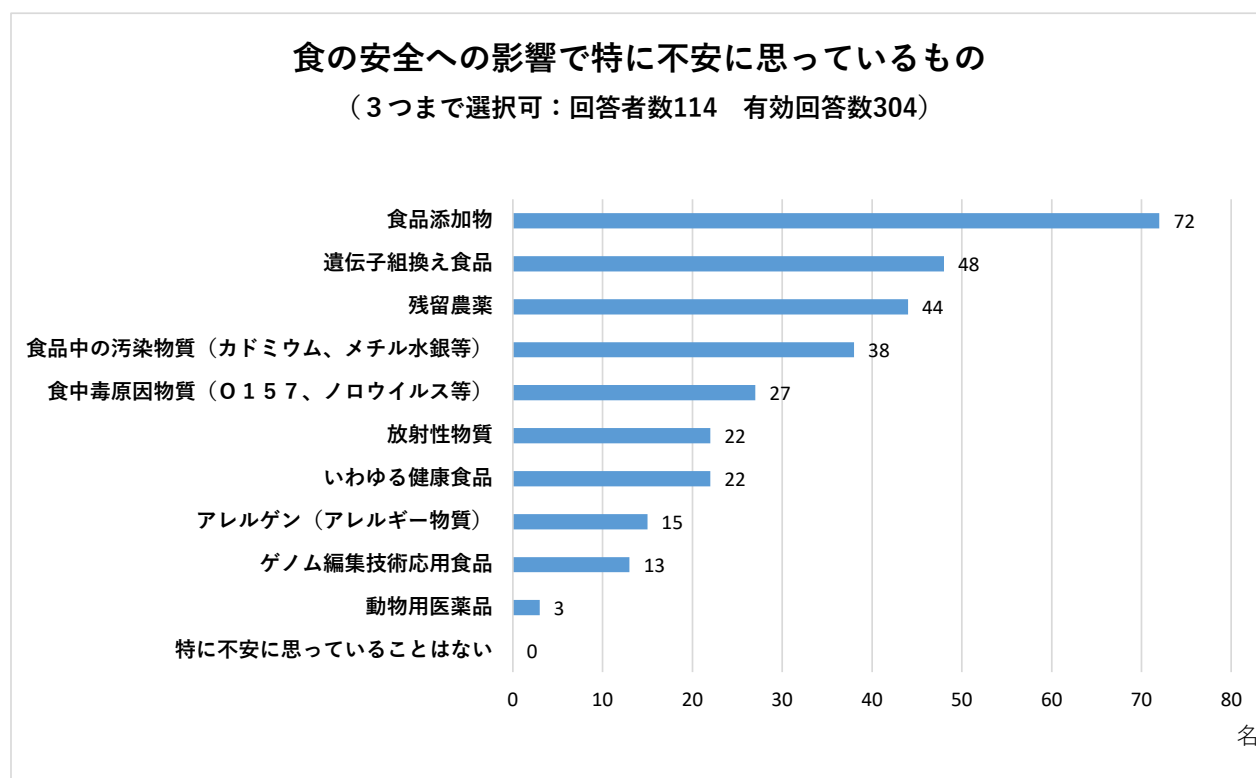
食の安全に対する取組については、「比較的高い関心」が 55.9%で最も多く、「最も関心が高い」が 24.4%、「同程度の関心を持っている」が 15.7%、「比較的低い関心」が 3.9%であった。



問 23 食の安全に影響を及ぼすものとして、特に不安に思っているものは何ですか。(3つまで選択可)

<回答結果>

食の安全に影響を及ぼすものとして特に不安に思っているものについて、「食品添加物」が72名で最も多く、「遺伝子組換え食品」が48名、「残留農薬」が44名、「食品中の汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」が38名、「食中毒原因物質（O157、ノロウイルス等）」が27名であった。

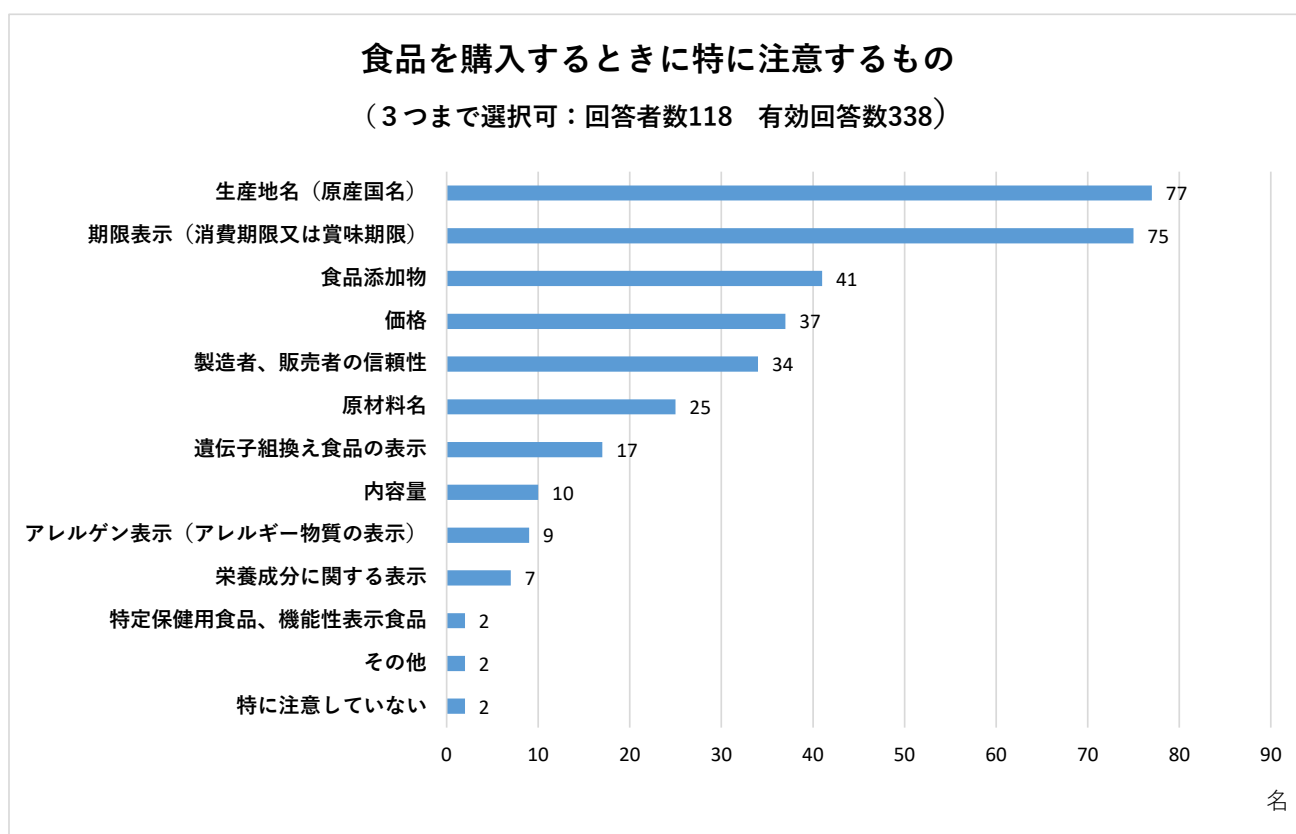




問 24 食品を購入するときに、特に注意していることは何ですか。(3つまで選択可)

<回答結果>

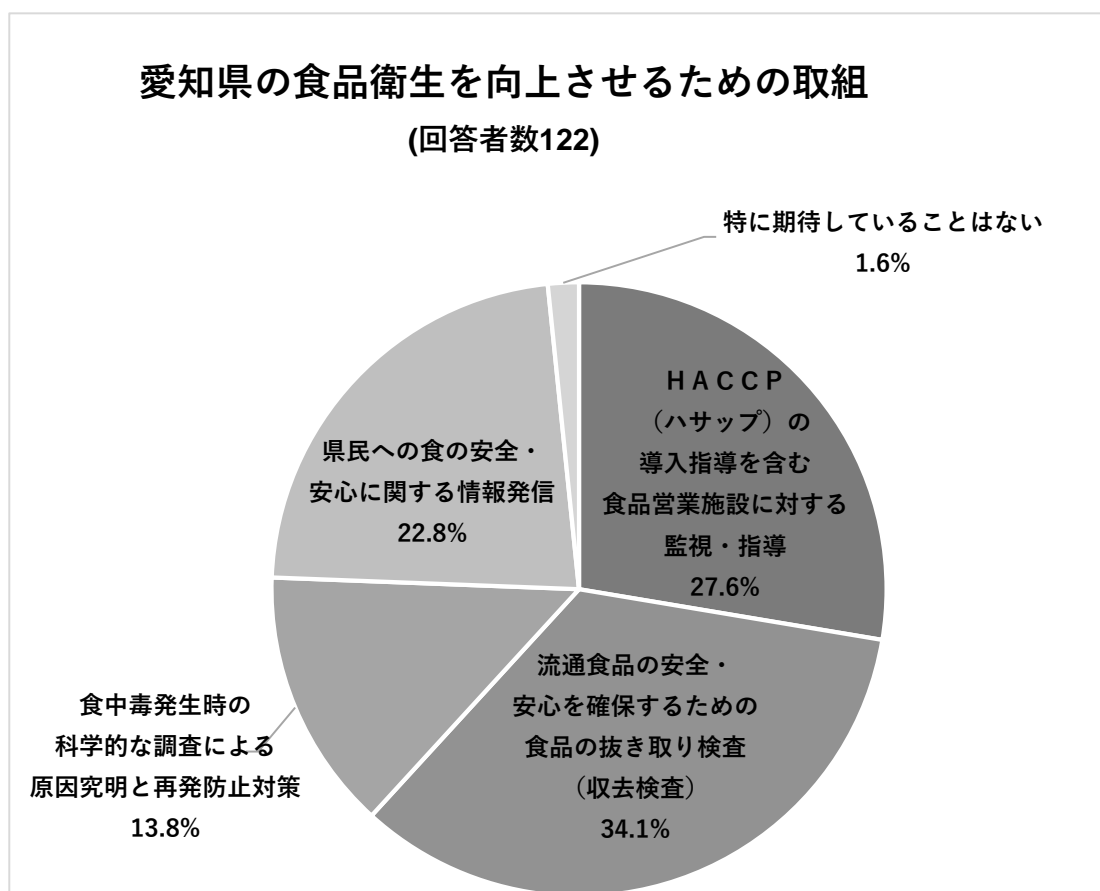
食品を購入するときに特に注意するものについて、「生産地名（原産国名）」が 77 名で最も多く、「期限表示（消費期限又は賞味期限）」が 75 名、「食品添加物」が 41 名、「価格」が 37 名、「製造者、販売者の信頼性」が 34 名、「原材料名」が 25 名、「遺伝子組換え食品の表示」が 17 名であった。



問 25 愛知県の食品衛生を向上させるための取組として、最も重要と考えているのは何ですか。  
(1つ選択)

<回答結果>

愛知県の食品衛生を向上させる取組として最も重要と考えているものは、「流通食品の安全・安心を確保するための食品の抜き取り検査（収去検査）」が 34.1%で最も多く、「HACCP（ハサップ）の導入指導を含む食品営業施設に対する監視・指導」が 27.6%、「県民への食の安全・安心に関する情報発信」が 22.8%、「食中毒発生時の科学的な調査による原因究明と再発防止策」が 13.8%であった。



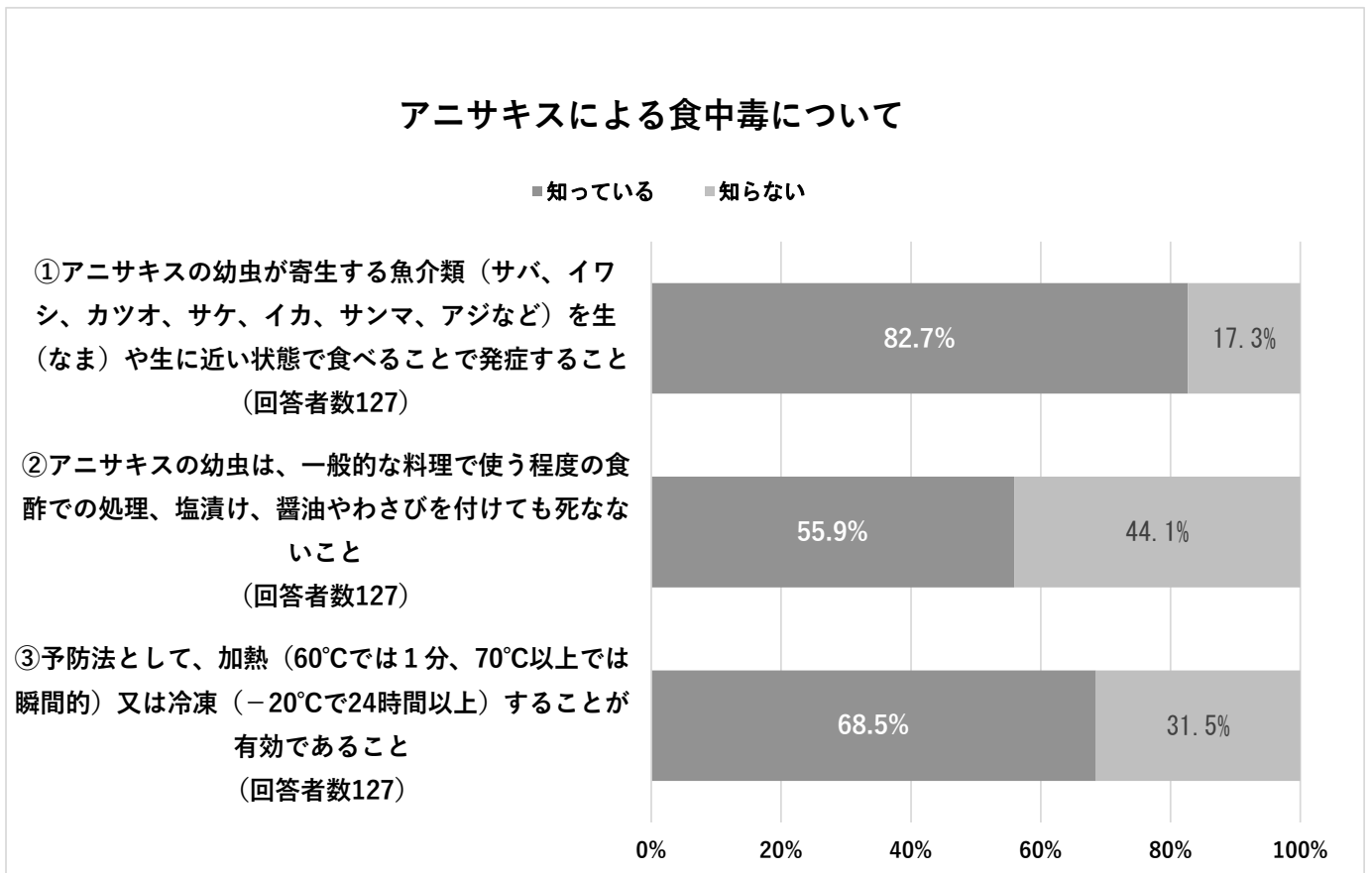
問 26 近年多発するアニサキスによる食中毒について、次のことを知っていますか。

《項目》

- ①アニサキスの幼虫が寄生する魚介類（サバ、イワシ、カツオ、サケ、イカ、サンマ、アジなど）を生や生に近い状態で食べることで発症すること
- ②アニサキスの幼虫は、一般的な料理で使う程度の食酢での処理、塩漬け、醤油やわさびを付けても死なないこと
- ③予防法として、加熱（60℃では1分、70℃以上では瞬時的）又は冷凍（-20℃で24時間以上）することが有効であること

<回答結果>

アニサキスによる食中毒に関わる3つの項目について、「知っている」を回答した方は、①82.7%、②55.9%、③68.5%であった。



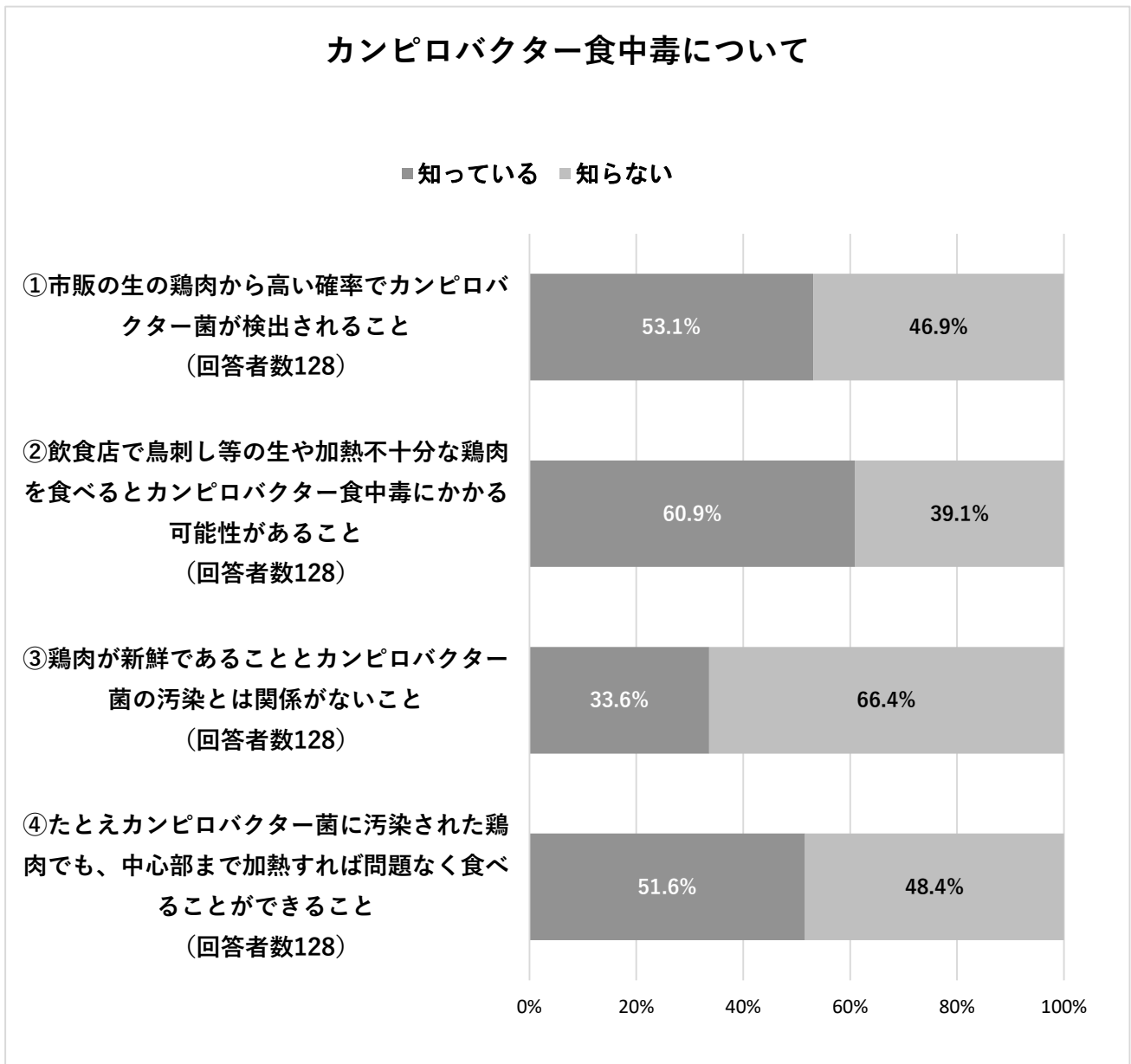
問 27 近年多発するカンピロバクター食中毒について、次のことを知っていますか。

《項目》

- ①市販の生の鶏肉から高い確率でカンピロバクター菌が検出されること
- ②飲食店で鳥刺し等の生や加熱不十分な鶏肉を食べるとカンピロバクター食中毒にかかる可能性があること
- ③鶏肉が新鮮であることとカンピロバクター菌の汚染とは関係がないこと
- ④たとえカンピロバクター菌に汚染された鶏肉でも、中心部まで加熱すれば問題なく食べることができること

<回答結果>

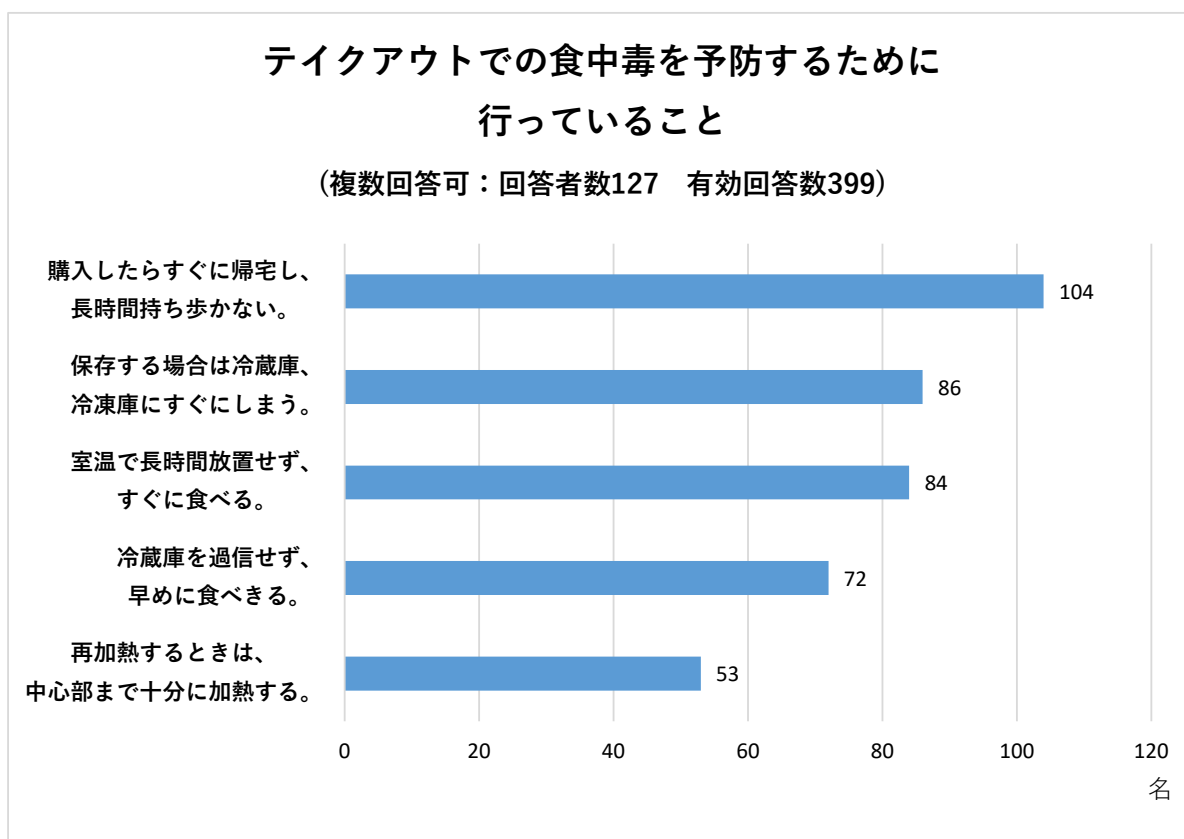
カンピロバクター食中毒に関わる4つの項目について、「知っている」を回答した方は、①53.1%、②60.9%、③33.6%、④は51.6%であった。



問 28 近年増加しているテイクアウトについて、家庭での食中毒を予防するために、以下の5項目のうち行っていることはありますか。(複数回答可)

<回答結果>

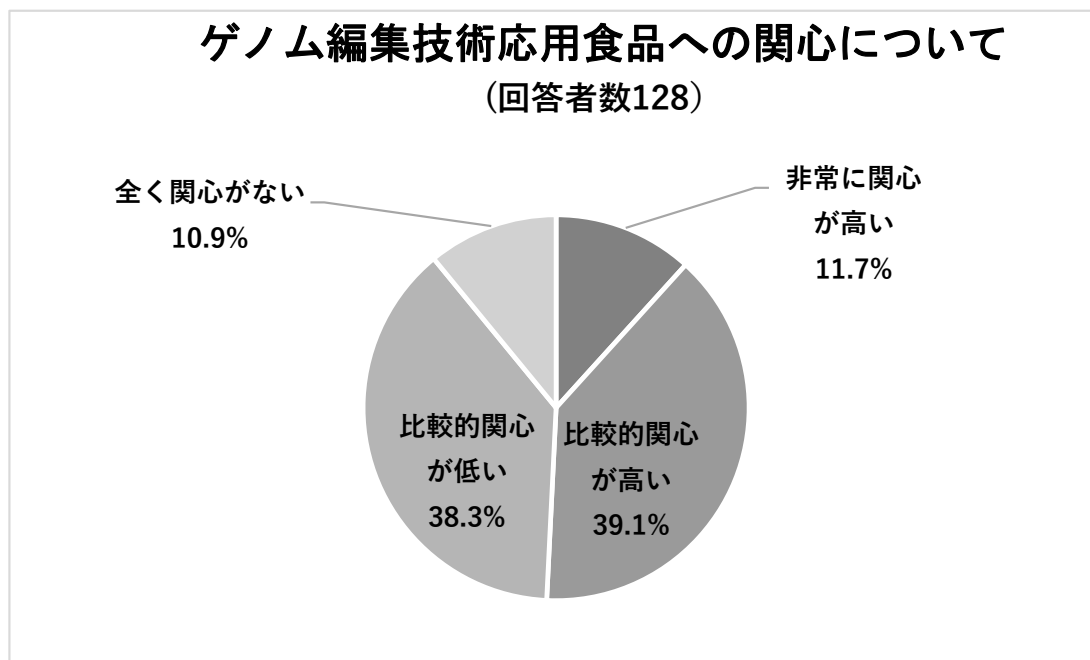
テイクアウトについて、家庭での食中毒を予防するために行っていることについては、「購入したらすぐに帰宅し、長時間持ち歩かない」が104名で最も多く、「保存する場合は冷蔵庫、冷凍庫にすぐにしまう」が86名、「室温で長時間放置せず、すぐに食べる」が84名、「冷蔵庫を過信せず、早めに食べきる」が72名、「再加熱するときは、中心部まで十分に加熱する」が53名であった。



**問 29** 近年、ゲノム編集技術を用いた食品開発が進んでおり、2020年12月には、国内で初めて、ゲノム編集技術応用食品（GABA高蓄積トマト）の届出及び情報提供書が提出されました。あなたは、ゲノム編集技術応用食品について、どの程度関心を持っていますか。（1つ選択）

<回答結果>

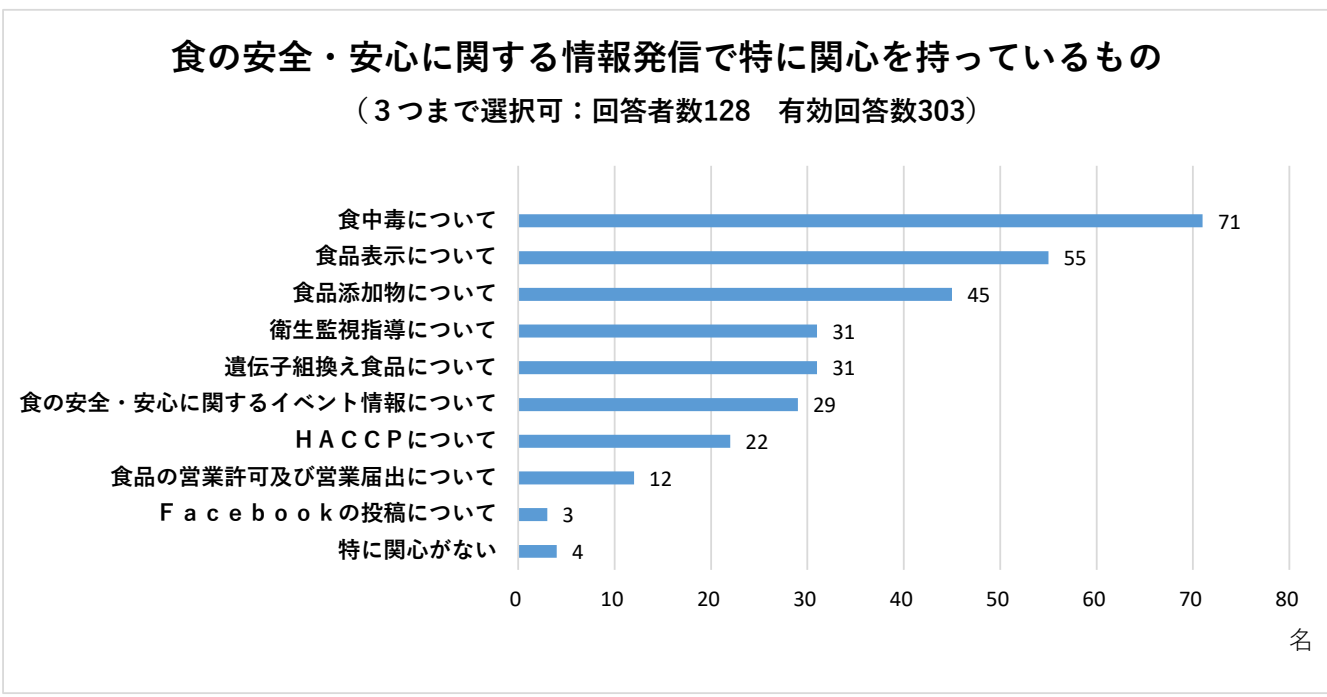
ゲノム編集技術応用食品について、どの程度関心を持っているかについては、「比較的関心が高い」が39.1%で最も多く、「比較的関心が低い」が38.3%、「非常に関心が高い」が11.7%、「全く関心がない」が10.9%であった。



問 30 愛知県の食の安全・安心に関する情報発信について、以下のうち、特に興味を持っているものは何ですか。（3つまで選択）

<回答結果>

愛知県の食の安全・安心に関する情報発信で、特に興味を持っているものについては、「食中毒について」が71名で最も多く、「食品表示について」が55名、「食品添加物について」が45名、「衛生監視指導について」、「遺伝子組換え食品について」が31名、「食の安全・安心に関するイベント情報について」が29名、「HACCPについて」が22名、「食品の営業許可及び営業届出について」が12名、「Facebookの投稿について」が3名であった。



問 31 食の安全・安心に関する意見・要望等について、自由に記載してください。

食の安全・安心に関する意見・要望等を自由に記載していただきました。ここでは、そのうち一部を抜粋して紹介します。

- ・大人になって知ろうとしても限界があり、なかなか徹底することはできないため、子供のうちから家庭、学校、地域で協力して伝えていくことが大切だと思います。企業の協力も必要で、食の安全安心に前向きに取り組んでいる企業の製品を買うように努めています。(60代女性)
- ・インターネットなど若い世代に対応できる広報手段を工夫してほしい。(50代女性)
- ・家族の食事をまかなっている身として、食の安全・安心については大変興味をもっており、様々な意見や要望を伝えているが、現状何も変わっていないように思う。県として食の安全・安心について何に取り組んでいるか全く見えません。(40代女性)
- ・野菜の見た目だけで販売したり、買わないで、多少のキズ、虫くいがあっても、商品として食べられる様になるのを願っています。(70代女性)
- ・近年、食の安全性の事件が話題になっている。日本は、「食の安全な国」と思っていたが信用できなくなってきた。輸入食品や農業、食品添加物等の安全性(の確認)は必須。(40代女性)
- ・衛生面に関して、連絡なしの立入調査の実施など、業者表示の不正を見つけてほしい。表示を信じていることができる世の中になることを希望する。(50代女性)
- ・スーパー、商店への立入検査、指導を頻度よく、実施していただきたい。抜き打ちが効果的だと思います。(70代男性)
- ・県として、県内企業の食品衛生向上や食の安全・安心についての情報発信などの取組を(支援する)活動を続けてほしい。(40代男性)
- ・コロナで国産食材を見直す良い機会だった。地産地消で安全な食材を使いたい。無添加のものも増えてきたのでよいと思う。(60代女性)
- ・食は安全・安心で当然という意識があり、問題が起きて報道があるとき以外は関心が薄くなりがち。(40代女性)
- ・安心・安全な食糧のために農業、漁業を守ってほしい。環境を守りたい。(60代女性)
- ・食の安全・安心については行政の立場からの監視指導を強化してほしい。(60代男性)
- ・TV番組で取り上げられた食品が翌日スーパーの棚から消える。食の安全、健康に関心は高いが、科学的知見に基づくリスク評価、コミュニケーションを地道に展開する必要がある。(60代男性)

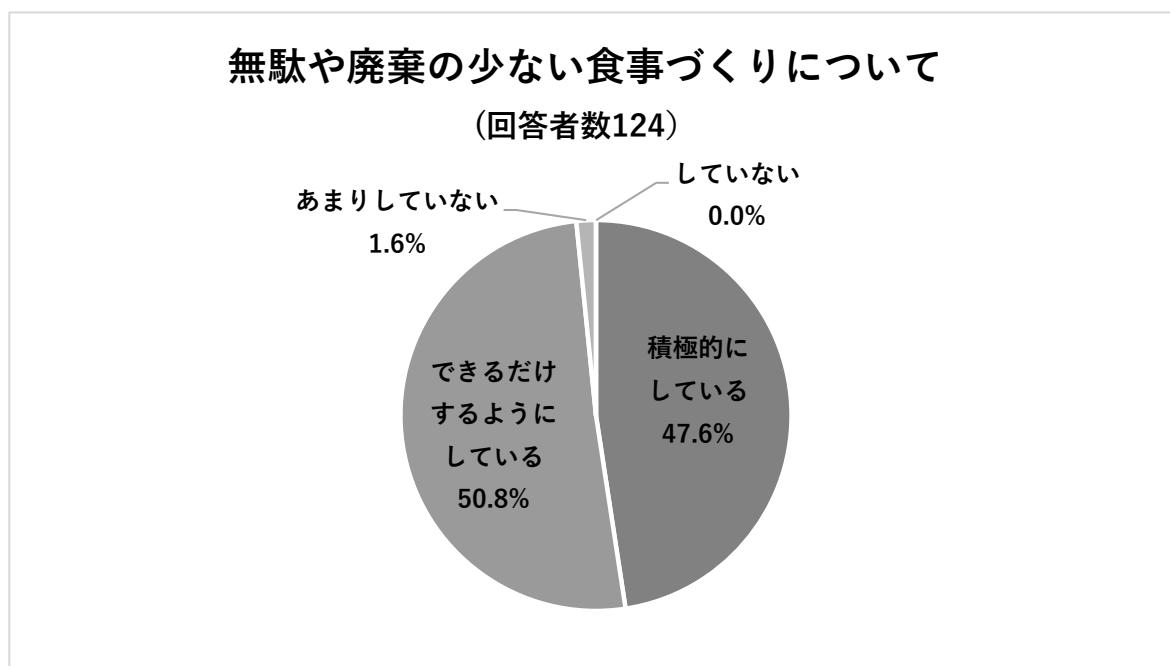


#### 4 食生活について

問 32 食べ残しなど無駄や廃棄の少ない食事づくりを行っていますか。(1つ選択)

<回答結果>

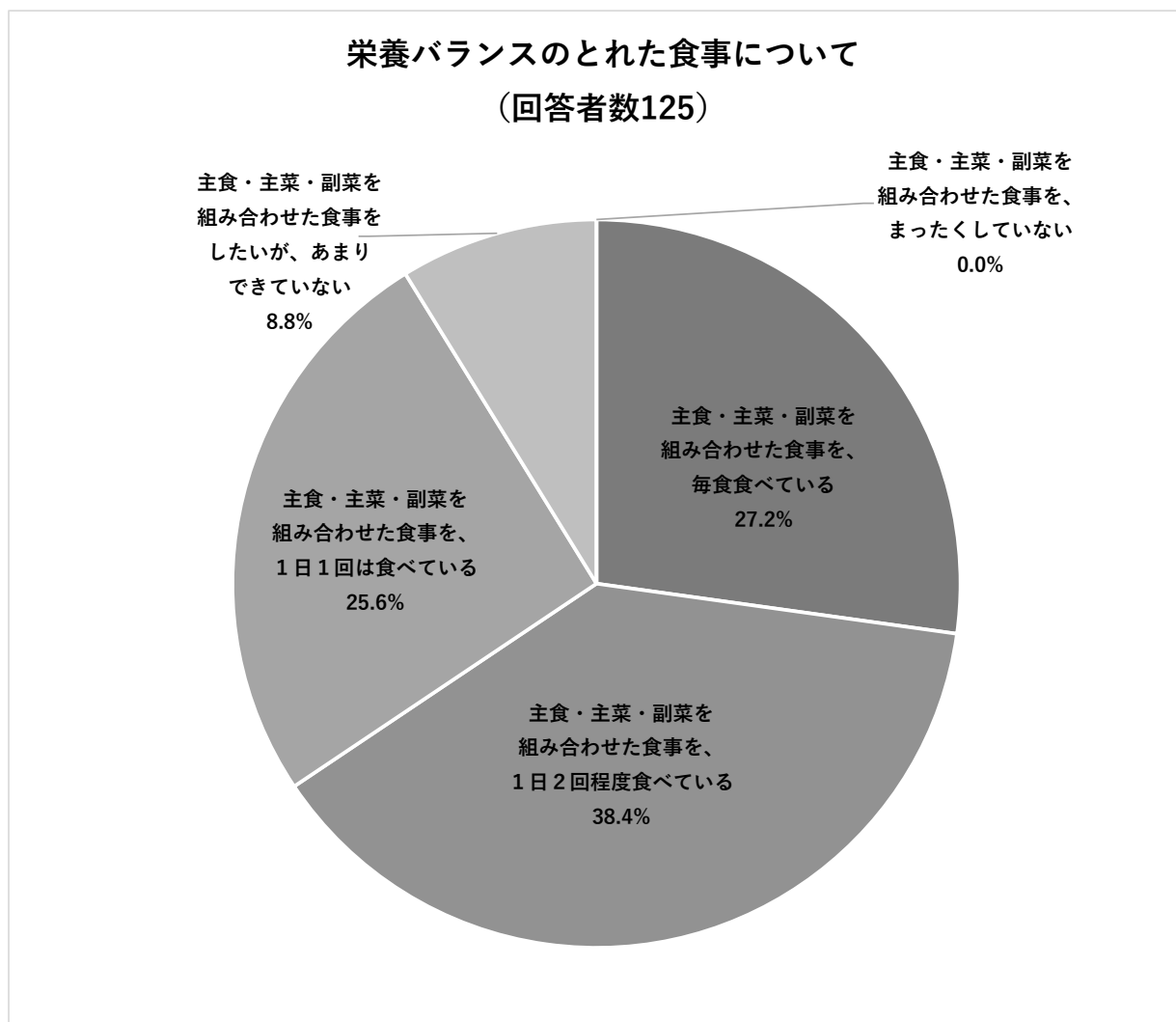
無駄や廃棄の少ない食事づくりについて、「できるだけするようにしている」が50.8%で最も多く、「積極的にしている」が47.6%、「あまりしていない」が1.6%であった。



問 33 栄養バランスに配慮し、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしていますか。(1つ選択)

<回答結果>

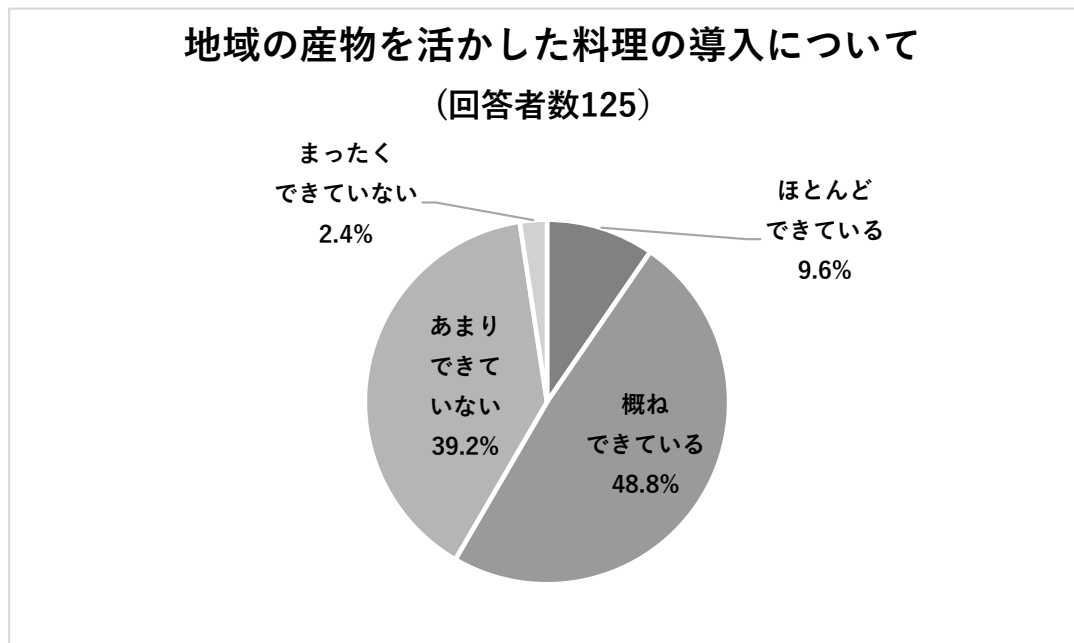
栄養バランスのとれた食事について、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日2回程度食べている」が38.4%で最も多く、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、毎食食べている」が27.2%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日1回は食べている」が25.6%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしたいが、あまりできていない」が8.8%であった。



**問 34** 日々の食事に日本の文化や地域の産物を活かし、ときには新しい料理も取り入れていますか。  
(1つ選択)

<回答結果>

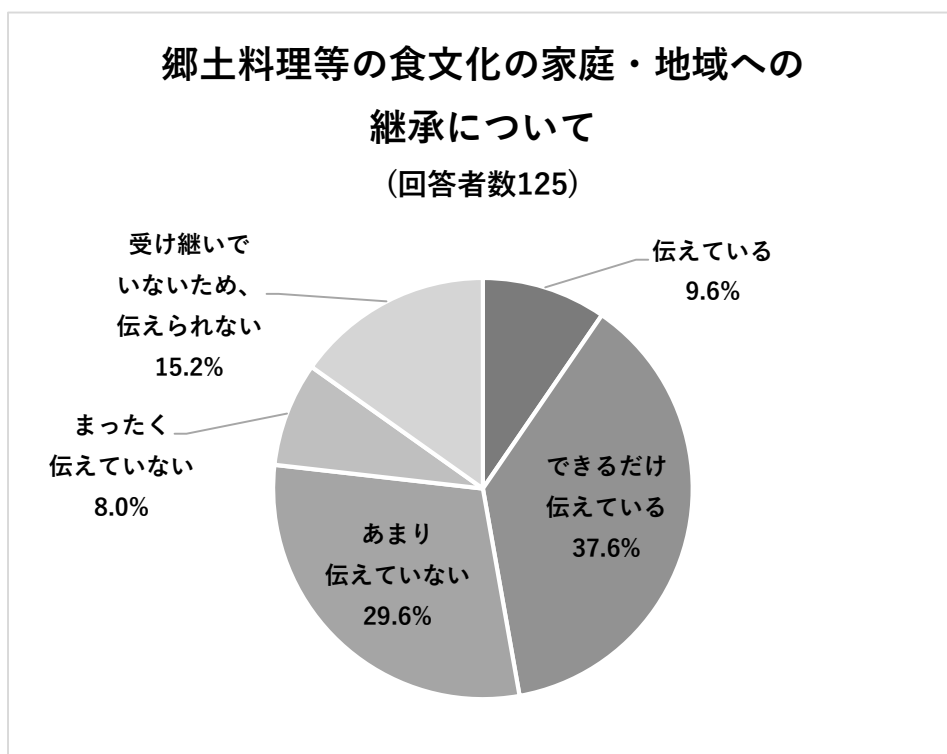
日々の食事に日本の文化や地域の産物を活かし、ときには新しい料理も取り入れることについて、「概ねできている」が48.8%で最も多く、「あまりできていない」が39.2%、「ほとんどできている」が9.6%、「まったくできていない」が2.4%であった。



問 35 家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えていますか。（1つ選択）

<回答結果>

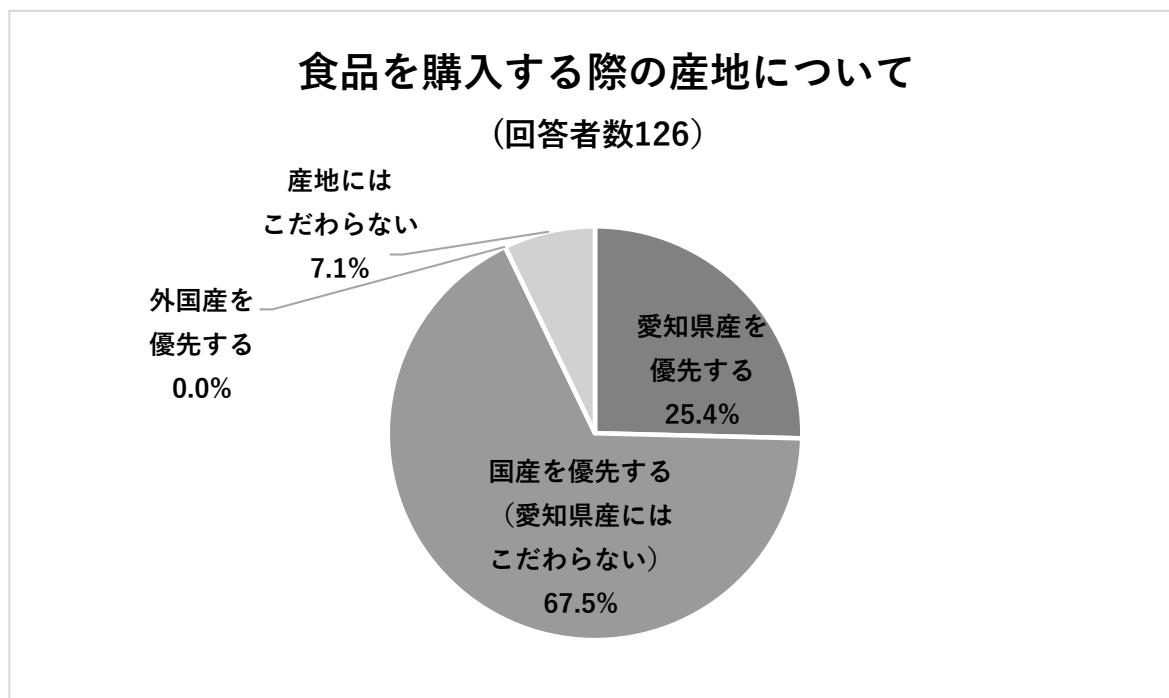
家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えているかについて、「できるだけ伝えている」が 37.6%で最も多く、「あまり伝えていない」が 29.6%、「受け継いでいないため、伝えられない」が 15.2%、「伝えている」が 9.6%、「まったく伝えていない」が 8.0%であった。



問 36 食品を購入する際に、どのような産地を優先して購入しますか。(1つ選択)

<回答結果>

食品を購入する際の産地について、「国産を優先する（愛知県産にはこだわらない）」が 67.5%で最も多く、「愛知県産を優先する」が 25.4%、「産地にはこだわらない」が 7.1%であった。



**携帯電話サービス等に関するアンケート調査報告**

2021年11月発行

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6163（ダイヤルイン）